取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

NOAH

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 22
安全なドライブのために 24
シートベルト 26
SRS エアバッグ 34
お子さまの安全のために 42
子供専用シート 43
チャイルドシートの取り付け 51
排気ガスに対する注意 58

1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 59
ハイブリッドシステムの注意 63

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 69

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 77
マルチインフォメーションディスプレイ 81

3 各部の操作

3-1. キー
キー 98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 102
スライドドア 106
バックドア 120
スマートエントリー＆スタートシステム 125

3-3. シートの調整
フロントシート 131
セカンドシート 132
サードシート 134
ヘッドレスト 136
シートアレンジ 140

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 148
インナーミラー 150
ドアミラー 151

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 153

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....158
荷物を積むときの注意.....169

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....170
EV ドライブモード.....176
トランスミッション.....179
方向指示レバー.....184
パーキングブレーキ.....185

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ.....186
フォグランプスイッチ.....189
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....190
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....193

4-4. 給油のしかた
給油口の開け方.....195

4-5. Toyota Safety Sense
Toyota Safety Sense.....199
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....204
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...216
オートマチックハイビーム....223
先行車発進告知機能.....227

4-6. 運転支援装置について
クルーズコントロール.....230
ドライブモードセレクトスイッチ.....234
クリアランスソナー.....236
パーキングサポートブレーキ（PKSB）.....244
運転を補助する装置.....249

4-7. 運転のアドバイス
ハイブリッド車運転のアドバイス.....255
寒冷時の運転.....257

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方
フロントオートエアコン.....262
リヤオートエアコン.....273
リヤクーラー.....277
シートヒーター（快適温熱シート）.....280

5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧.....282
・インテリアランプ.....283
・フロントパーソナルランプ.....283

5-3. 収納装備
収納装備一覧.....285
・グローブボックス.....287
・コンソールボックス.....287
・カップホルダー.....288
・ボトルホルダー.....289
・ドアポケット.....290
・小物入れ.....291
・オープントレイ.....292
ラゲージルーム内装備.....293

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 296
・サンバイザー.....296
・バニティミラー.....296
・時計 296
・アクセサリーソケット 297
・アクセサリーコンセント 298
・充電用 USB 端子 304
・アームレスト.....306
・折りたたみ式テーブル 307
・買い物フック.....309
・アシストグリップ.....310
・後席用サンシェード.....311
・ステアリングスイッチ 311

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....314
内装の手入れ.....318

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....321
ガレージジャッキ.....324
ウォッシャー液の補充 325
タイヤについて.....327
タイヤ空気圧について 331
エアコンフィルターの交換....333
キーの電池交換.....336
ヒューズの点検・交換 339
電球（バルブ）の交換 342

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 354
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 355
発炎筒 356
車両を緊急停止するには..... 358
水没したときは 359

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 360
警告灯がついたときは 366
警告メッセージが表示されたときは 371
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 379
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 394
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 406
電子キーが正常に働かないときは..... 408
補機バッテリーがあがったときは 410
オーバーヒートしたときは... 417
スタックしたときは 422

8 車両情報

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....426
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....431
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 435

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....438
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....442
アルファベット順さくいん.....444
五十音順さくいん 446

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティなど）の作動状況
・前方カメラの画像情報

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”　“このようにしないでください”　“このようなことを起こさないでください”　という意味です。

知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....446
・アルファベット順
さくいん.....444

■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....438
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....442

■ タイトルから探す

・目次.....2

イラスト目次

■外観

① **フロントドア . . . . . P. 102**

施錠／解錠 . . . . . P. 102, 104

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 153

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 408

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 368, 371

② **スライドドア . . . . . P. 106**

施錠／解錠 . . . . . P. 106

スライドドアの開閉 . . . . . P. 107

パワースライドドア . . . . . P. 107

ドアガラスの開閉 . . . . . P. 153

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 368, 371

③ **バックドア . . . . . P. 120**

施錠／解錠 . . . . . P. 120

開け方／閉め方 . . . . . P. 120

警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 368, 371

④ **ドアミラー** . . . . . **P. 151**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 151
ミラーの格納 . . . . . P. 151
曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 266
⑤ **ワイパー** . . . . . **P. 190, 193**
冬季の注意 . . . . . P. 258
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 266
⑥ **給油口** . . . . . **P. 195**
給油方法 . . . . . P. 195
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 426
⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 327**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 429
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 258
点検・ローテーション . . . . . P. 327
パンク時の対処 . . . . . P. 379, 394
⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 321**
開け方／閉め方 . . . . . P. 321
エンジンオイル . . . . . P. 426
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 417

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 342, ワット数：P. 429）

⑨ **ヘッドランプ・車幅灯** . . . . . **P. 186**
⑩ **フォグランプ★** . . . . . **P. 189**
⑪ **方向指示灯** . . . . . **P. 184**
⑫ **尾灯** . . . . . **P. 186**
⑬ **番号灯** . . . . . **P. 186**
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 179

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル

① **パワースイッチ . . . . . P. 170**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 170

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 358

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 406

警告メッセージ . . . . . P. 371

② **シフトレバー . . . . . P. 179**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 179

けん引時の注意 . . . . . P. 360

③ **P ポジションスイッチ . . . . . P. 180**

④ **メーター . . . . . P. 77**

見方・明るさの調整 . . . . . P. 77

警告灯／表示灯 . . . . . P. 72

警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 366

⑤ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 81**
表示内容 . . . . . P. 81
エネルギーモニター . . . . . P. 88
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 371
⑥ **パーキングブレーキ . . . . . P. 185**
かける・解除する . . . . . P. 185
冬季の注意 . . . . . P. 258
警告ブザー . . . . . P. 185
⑦ **方向指示レバー . . . . . P. 184**
ランプスイッチ . . . . . P. 186
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . . P. 186
フォグランプ★ . . . . . P. 189
⑧ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント） . . . . . P. 190**
ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ） . . . . . P. 193
使い方 . . . . . P. 190, 193
ウォッシャー液の補充 . . . . . P. 325
⑨ **非常点滅灯スイッチ . . . . . P. 355**
⑩ **給油口オープナー . . . . . P. 195**
⑪ **ボンネット解除レバー . . . . . P. 321**
⑫ **ハンドル位置調整レバー . . . . . P. 148**
⑬ **オートエアコン . . . . . P. 262**
操作方法 . . . . . P. 262
リヤウインドウガラスの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー） . . . . . P. 266

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スイッチ類

① ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 266
② TRC OFF スイッチ.....P. 250
③ パワースライドドアスイッチ.....P. 109
④ パワースライドドアメインスイッチ.....P. 107
⑤ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチ.....P. 218
⑥ PCS（プリクラッシュセーフティ）スイッチ.....P. 208
⑦ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 223
⑧ ドアミラースイッチ.....P. 151
⑨ ウインドウロックスイッチ.....P. 153
⑩ パワーウインドウスイッチ.....P. 153
⑪ ドアロックスイッチ.....P. 104

① 時刻調整スイッチ . . . . . .P. 296
② EV ドライブモードスイッチ . . . . . .P. 176
③ ECO MODE スイッチ . . . . . .P. 234
④ PWR MODE スイッチ . . . . . .P. 234
⑤ シートヒータースイッチ★. . . . . .P. 280
⑥ アクセサリーコンセントメインスイッチ★. . . . . .P. 298

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

① オーディオスイッチ . . . . . .P. 311
② メーター操作スイッチ. . . . . P. 83
③ クルーズコントロールスイッチ . . . . . .P. 230

室内

① SRS エアバッグ . . . . . P. 34
② フロアマット . . . . . P. 22
③ フロントシート . . . . . P. 131
④ セカンドシート . . . . . P. 132
⑤ サードシート . . . . . P. 134
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 136
⑦ シートベルト . . . . . P. 26
⑧ コンソールボックス . . . . . P. 287
⑨ ロックレバー . . . . . P. 104
⑩ カップホルダー . . . . . P. 288
⑪ 小物入れ . . . . . P. 291
⑫ アシストグリップ . . . . . P. 310

① インナーミラー . . . . . P. 150
② サンバイザー ※1 . . . . . P. 296
③ バニティミラー . . . . . P. 296
④ インテリアランプ ※2 . . . . . P. 283
フロントパーソナルランプ . . . . . P. 283
⑤ 小物入れ . . . . . P. 291

※1： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 56）

※2： 図はフロントですが、センター・リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....22
安全なドライブのために.....24
シートベルト.....26
SRS エアバッグ.....34
お子さまの安全のために.....42
子供専用シート.....43
チャイルドシートの取り付け.....51
排気ガスに対する注意.....58
1-2. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....59
ハイブリッドシステムの注意.....63
1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....69

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 131）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 131）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 136）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 150, 151）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

着け方（サードシート中央席）

1 プレートを取り出す

2 ベルトを固定するには、プレートA、プレートBの順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B

はずし方・格納のしかた（サードシート中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する

2 プレート B またはメカニカルキーをバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

4 バックルをシートクッションの穴に格納する

シートベルトの高さ調整（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■サードシート左右席のシートベルトについて

シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟み、プレートをクリップの下にしてください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- サードシート左右席シートベルトを使用するときは、シートベルトクリップにシートベルトがかかっていないことを確認する
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する（→ P. 27）

警告

■ **妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 26）

■ **お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ **プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② 運転席 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 43）
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→P. 386）

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車：エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）が数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 64）

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動します。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 109）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 153）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 51）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※ の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0＋　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、Ⅰに相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート	サードシート	
	助手席	左右席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U※1	U※1	×
0＋（13kg まで）	×	U※1	U※1	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	U※1、2	U※1、2	×
	前向き UF※1、2			
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF※1、2	U※1、2	U※1、2	×

● 上記に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立状態にしてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置 セカンドシート 左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL※
	B1	ISO/F2X	IUF、IL※
	A	ISO/F3	IUF、IL※

● 上記に記入する文字の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL： ISOFIX 子供専用シートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストと子供専用シートが干渉して子供専用シートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0 + （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I （9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シート取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシートまたはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 45）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 46）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例 2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 47）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表し、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③ トップテザー（→ P. 51）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろに下げる

●背もたれを直立状態（一度背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こす）にする

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 52）

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー
（→ P. 53）

セカンドシートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

トップテザーアンカー
（→ P. 53）

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

1 背もたれを一度前に倒し、一段目の固定位置まで起こす

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 136）

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる（→ P. 136）

チャイルドシートがヘッドレストにあたる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

4 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●シートの前後位置を調整するときは、手や足などを挟まないようにしてください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン

② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションがＮにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 61）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- ●シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- ●シフトポジションが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV 走行インジケーターが点灯します。

EV走行インジケーターの作動／非作動を設定できます。（→ P. 92）

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 412

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動前・始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるフロントシート下部および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●助手席下部にある吸入口から聞こえるファンの音

●エアコン（エアコンコンプレッサー、ファンモーター）の作動音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ 駆動用電池
④ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑤ 電気モーター
⑥ エアコンコンプレッサー
⑦ パワーコントロールユニット

駆動用電池冷却用吸入口

助手席下部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 368）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約7.5Lです。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。

警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 360）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。

●吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- ●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....72
計器類.....77
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....81

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

IO20NA027

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1
（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 366）

※1
（黄色）
電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 366）

※1
充電警告灯
（→ P. 366）

※1
油圧警告灯
（→ P. 366）

※1, 2
高水温警告灯
（→ P. 366）

※1
エンジン警告灯
（→ P. 366）

※1
SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 367）

※1
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯（→ P. 367）

※1
（赤色／
黄色）
パワーステアリング警告灯
（→ P. 367）

※1
（点滅また
は点灯）
PCS 警告灯
（→ P. 367）

※1
スリップ表示灯
（→ P. 367）

※1
ヘッドランプ
オートレベリング警告灯
（→ P. 367）

半ドア警告灯
（→ P. 368）

燃料残量警告灯
（→ P. 368）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 368）

※1
マスターウォーニング
（→ P. 368）

※3
ブレーキオーバーライド
システム警告灯／
ドライブスタート
コントロール警告灯
（→ P. 368）

※1
（点滅）
PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 367）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 水温の上昇にともない、点滅から点灯にかわります。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 184）

尾灯表示灯
（→ P. 186）

ハイビーム表示灯
（→ P. 186）

フロントフォグランプ
表示灯★（→ P. 189）

READY インジケーター
（→ P. 170）

シフトポジション表示灯
（→ P. 77）

※1

EV 走行インジケーター
（→ P. 60）

セキュリティ表示灯
（→ P. 69）

スマートエントリー&
スタートシステム表示灯
（→ P. 171）

EV ドライブモード表示灯
（→ P. 176）

ECO MODE 表示灯
（→ P. 234）

PWR MODE 表示灯
（→ P. 234）

※1, 2

スリップ表示灯
（→ P. 250）

※1

TRC OFF 表示灯
（→ P. 250）

※1, 3

PCS 警告灯
（→ P. 204）

LDA（レーンディパーチャー
アラート）表示灯
（→ P. 218）

オートマチックハイビーム
表示灯（→ P. 223）

クルーズコントロール
表示灯（→ P. 230）

クルーズコントロール
セット表示灯（→ P. 230）

クリアランスソナー
表示灯★（→ P. 237）

※1, 3

PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 245）

※4

始動可能表示
（→ P. 170）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※4

低温表示灯
（→ P. 82）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システム作動時に点滅します。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→ P. 80）

② スピードメーター

車両の走行速度を示します。

③ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

④ シフトポジション表示灯

選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 179）

⑤ オドメーター・トリップメーター・メーター照度調整画面

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整画面：
メーター照明の明るさを調整できます。

⑥ 表示切りかえボタン

→ P. 78

表示切りかえボタン

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

① オドメーター

② トリップメーター A ※1

③ トリップメーター B ※1

④ メーター照度調整画面 ※2

※1 押し続けると 0 にもどります。

※2 押し続けると照度を調整できます。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■燃料計と航続可能距離（→ P. 87）について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1. 車両を水平な場所に停車させる
2. 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3. パワースイッチを OFF にする
4. 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを ON モードにする
5. そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

   オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

③ ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

●次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターの作動が停止します。

・READY インジケーターが点灯していないとき
・シフトポジションが D または B 以外のとき

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 366）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、ハイブリッドシステムを確認してください。（→ P. 417）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、エアコンや各システムの設定などを変更することもできます。

◆ 画面の見方

次の情報が表示されます。

情報表示部に表示される情報の種類によっては、外気温やエアコン設定表示などが非表示になる場合があります。

① 外気温表示

外気温を－40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

② メニューアイコン（→ P. 84）

③ 時計

現在の時刻を表示します。（→ P. 296）

情報表示部にアナログ調時計（→ P. 91）を表示したときは、表示されません。

④ 情報表示部

ドライブインフォメーション（→ P. 86）や各種のメッセージなどを表示します。

⑤ エアコン設定表示

現在のフロントオートエアコンの設定内容（設定温度 ※1・風量・吹き出し口）を表示します。（→ P. 262）

フロント席からリヤオートエアコン★を操作したときは、一定のあいだリヤオートエアコンの設定内容（設定温度・風量・吹き出し口）※2 が表示されます。（→ P. 265）

※1 画面の左側に助手席温度が、右側に運転席温度が表示されます。

※2 リヤオートエアコンの設定の表示中は、表示部に「REAR」と表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “ -- ” または “ E ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

■割り込み表示について

S-FLOW モード（→ P. 263）やナビゲーションシステム（ハンズフリー機能）★などの一部の機能は、作動に連動してマルチインフォメーションディスプレイ上に割り込み画面を表示します。

これらの機能の割り込み表示が不要な場合は、 画面でOFFに設定することもできます。（→ P. 92）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って、次のように操作します。

① ∧・∨・〈・〉の位置を押して、画面のスクロール※1や表示内容の切りかえ※1、カーソルの移動などの操作を行います。

② 選択されている項目の決定やON／OFFの切りかえなどの操作に使用します。

③ 短く押すと、トップ画面（お気に入り画面）として登録された画面が表示されます。※2

押し続けると、現在表示中の画面がトップ画面（お気に入り画面）として登録されます。※3

④ 各機能の設定画面の表示を終了させたり、割り込み表示を解除したりする際に使用します。

※1 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマーク（∧・∨など）が表示されます。

※2 工場出荷時は、ドライブインフォメーション画面が登録されています。

※3 スイッチを押し続けると、トップ画面（お気に入り画面）への登録を確認する画面が表示されます。なお、登録できない画面を登録しようとしたときは、登録不可を示すメッセージが表示されます。

知識

■ メーター操作スイッチについて

画面の「操作ガイド」で、メーター操作スイッチに関する情報を確認することができます。（→ P. 85）

◆ メニューアイコン

メーター操作スイッチの〈／〉を操作してアイコンを切りかえることで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

項目によっては、状況に応じて自動で表示されます。

ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 86）

エアコン設定画面

フロントオートエアコン・リヤオートエアコン★の設定を変更することができます。（→ P. 90）

オーディオ連携画面★

選択されているオーディオソースの情報を表示します。

・オーディオソースを切りかえるには、メーター操作スイッチの◎を押してオーディオソース選択画面を表示し、∧／∨を押してご希望のオーディオソースを選択してから◎を押します。

・オーディオソースの変更を中止するときは、オーディオソース選択画面でメーター操作スイッチの↩を押します。

時計表示画面

アナログ調時計を画面上に表示することができます。

意匠は 3 種類の中から選択できます。また、時計の表示に関する設定を変更することもできます。（→ P. 91）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LDA（レーンディパーチャーアラート）作動表示画面

LDA（→ P. 216）の作動状況を表示します。

メッセージ表示画面

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 371）

・警告メッセージがないときは、「メッセージがない」という内容の表示でお知らせします。

・複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチの∧／∨を操作することで表示を切りかえることができます。

・確認可能なメッセージがあるときは、⚠が黄色で表示されます。

設定画面／操作ガイド

▶設定画面

車両の機能やマルチインフォメーションディスプレイの表示などに関する設定を変更できます。（→ P. 92）

▶操作ガイド

メーター操作スイッチの操作方法を確認できます。

・操作ガイドを表示するときは、⚙画面でメーター操作スイッチの∧／∨を押して「操作ガイド」を選択し、◎を押します。

・操作ガイドの表示中にメーター操作スイッチの∧／∨を押すと、表示内容が切りかわります。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押すことで、画面上に表示される情報を切りかえることができます。

■ 1 分間燃費＆瞬間燃費／ 5 分間燃費＆瞬間燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費の推移 ※、および現在の瞬間燃費を確認できます。

※ 1 分間ごと、または 5 分間ごとのいずれかの間隔を選択して表示することができます。

▶ 画面の見方

ここでは「1 分間燃費＆瞬間燃費」の表示を例にしていますが、情報の見方はいずれの画面も同様です。

① 平均燃費の推移

1 分間ごと、または 5 分間ごとの平均燃費の推移を表示します。

1 分間燃費表示のときは最大 10 分前まで、5 分間燃費表示のときは最大 30 分前までの平均燃費の履歴が表示されます。

1 分間または 5 分間が経過するごとにグラフ表示が左に移動し、最も古い履歴が消去されます。

ハイブリッドシステムを停止するたびに、表示がリセットされます。

② 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。また、現在のリセット間平均燃費（→ P. 87）を ◀ マークで表示します。

停車中は表示されません。

▶ 1 分間燃費／ 5 分間燃費を切りかえるには

1 1 分間燃費または 5 分間燃費画面が表示されている状態で、メーター操作スイッチの ◎ を押し続ける

燃費時間の設定画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ︿ ／ ﹀ を押していずれかの燃費時間を選択し、◎ を押す

3 メーター操作スイッチの ⮌ を押す

選択した時間単位の内容に、平均燃費の表示が切りかわります。

■ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

次の中から選択した情報を 1 画面ごとに 2 つずつ、ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 として表示することができます。

ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 に情報を登録する方法については、P. 92 を参照してください。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

項目	表示内容
航続可能距離	現在の燃料残量で走行可能な、およその距離を表示します。（→ P. 89）
リセット間平均燃費	前回リセットしてからの平均燃費を表示します。※1, 2, 3
リセット間平均車速	前回リセットしてからの平均車速を表示します。※1, 2
リセット間走行時間	前回リセットしてからの走行時間を表示します。※1, 2

※1 リセットするには、メーター操作スイッチの ◎ を押し続けます。

※2 リセットが可能な情報が 1 画面上に 2 つ表示されているときは、リセットする情報を選択する画面が表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの ︿ ／ ﹀ を押してリセットしたい情報を選択し、◎ を押します。

その後、「実行」を選択して ◎ を押すと、情報がリセットされます。

※3 リセット間平均燃費をリセットすると、瞬間燃費画面（→ P. 86）上に表示される ◀ マークの位置もリセットされます。

■ エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの作動状況を表示します。

作動状況	画面表示
電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ ブランク表示

ドライブインフォメーションが非表示になります。

知識

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 79）

●「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。
その場合は、すみやかに給油してください。

■駆動用電池の残量警告について

●走行中、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。

●マルチインフォメーションのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

エアコン設定画面

メーター操作スイッチでフロントオートエアコン・リヤオートエアコン★の設定を変更することができます。

1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して を選択し、◎を押す

カーソルが表示されます。

2 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

運転席温度・モード（吹き出し口）・風量・助手席温度を変更できます。

リヤオートエアコン装着車は、メーター操作スイッチの∧／∨を押すことで、リヤオートエアコンの設定画面※を表示して、後席温度・モード（吹き出し口）・風量の設定を変更することもできます。

※ 設定画面上に「REAR」と表示されます。

3 メーター操作スイッチの〈／〉を押して、設定を変更する

お好みの設定になるまで手順2～3の操作をくり返します。

4 設定が終了したら、メーター操作スイッチの を押す

フロントオートエアコン・リヤオートエアコン★の詳細については、P. 262, 273 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計表示画面

■ 機能について

マルチインフォメーションディスプレイ上にアナログ調の時計を表示することができます。

時計の表示中にメーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押すことで、3 種類の中からお好みの意匠に切りかえることができます。

「時計設定」画面から、時計の表示方法（12 時間／ 24 時間）の変更と時刻の調整を行うことができます。

■「時計設定」の変更のしかた

1 画面でメーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「時計設定」を画面上に表示させる

2 メーター操作スイッチの ◎ を押す

「時計設定」画面が表示されます。

3 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ を押して、「時計表示切替（12H/24H）」または「時刻調整」を選択し、◎ を押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ ／ ∨ ／ ＜ ／ ＞ を押して、設定を変更する

「時計表示切替（12H/24H）」画面では、∧ ／ ∨ を押して「12 時間」または「24 時間」のいずれかを選択し、◎ を押します。

「時刻調整」画面では、＜ ／ ＞ を押して時刻または分の枠を選択し、∧ ／ ∨ を押して数値を変更します。

5 設定が終了したら、メーター操作スイッチの ⮌ を押す

設定画面

メーター操作スイッチで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの〈／〉を押して を選択する

2 「設定」の位置にカーソルがあることを確認して、◎を押す

「設定」画面が表示されます。

3 メーター操作スイッチの∧／∨を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動し、◎を押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 ∧／∨で調整する：

メーター操作スイッチの∧／∨を押して、ご希望の設定の位置にカーソルを移動し、◎を押す

「時刻調整」画面では、〈／〉を押して時刻または分の枠を選択し、∧／∨を押して数値を変更します。

◎で調整する：

メーター操作スイッチの◎を押して、ご希望の設定に変更する

5 設定が終了したら、メーター操作スイッチの を押す

■ 設定項目一覧

設定項目		設定内容	設定結果
PKSB★		ON	パーキングサポートブレーキのON／OFFが切りかわる（→ P. 245）
		OFF	
クリアランスソナー★		ON	クリアランスソナーの ON／OFF が切りかわる（→ P. 237）
		OFF	
クリアランスソナーブザー音量★		レベル 1 ～ 3	クリアランスソナーのブザーの音量が切りかわる
言語		日本語	画面上に表示される言語が切りかわる
		English（英語）	
単位		km/L	燃費表示の単位が切りかわる
		L/100km	
ドライブインフォ 1※			→ P. 87
ドライブインフォ 2※			
先行車発進告知		ON	先行車発進告知機能の作動・非作動が切りかわる（→ P. 227）
		OFF	
先行車発進告知タイミング		早い	先行車の発進を告知するタイミングが切りかわる（→ P. 227）
		普通	
		遅い	
LDA 警報感度		高い	LDA（車線逸脱警報）の感度が切りかわる（→ P. 216）
		普通	
EV 表示		ON	EV 走行インジケーター（→ P. 60）の表示・非表示が切りかわる
		OFF	
割込表示	S-FLOW 空調	ON	選択した項目の、マルチインフォメーションディプレイへの割り込み表示の有無が切りかわる
		OFF	
	着信★	ON	
		OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定項目	設定内容	設定結果
スイッチ設定	−	スイッチに画面を登録する方法が表示される
時計表示切替（12H/24H）	12 時間	時計（→ P. 81）の表示方法（12 時間表示・24 時間表示）が切りかわる
	24 時間	
時刻調整	−	時計の時刻が調整される
カラー	表示色 1 ～ 4	マルチインフォメーションディスプレイの表示色が切りかわる
照度調整	レベル 1 ～ 10	マルチインフォメーションディスプレイの照度が切りかわる
初期化	はい	実行すると、マルチインフォメーションディスプレイの設定が工場出荷時の状態にもどる
	いいえ	

※ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 を選択すると、現在登録されている情報の名称が表示されます。いずれかの情報名を選択し、選択画面で新たに表示させたい情報を選択することで、ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 に表示される情報を変更できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作スイッチの操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

警告

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア.....102

スライドドア.....106

バックドア.....120

スマートエントリー&
スタートシステム.....125

3-3. シートの調整

フロントシート.....131

セカンドシート.....132

サードシート.....134

ヘッドレスト.....136

シートアレンジ.....140

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル.....148

インナーミラー.....150

ドアミラー.....151

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ.....153

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 125）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する（→ P. 102）

② ドアガラスを閉める ※（→ P. 102）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 102）

④ ドアガラスを開く ※（→ P. 102）

⑤ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 107）

⑥ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 107）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 432）

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 408）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→ P. 336）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→ P. 127）

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→ P. 336）

■電池の交換方法

→ P. 336

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けたりしない

■電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

② 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 432）

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ワイヤレスリモコンによるドアガラスの開閉を、ブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。
セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 408）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 336）

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 408）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 127

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

→ P. 102

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 102

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 104

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠

スライドドアの手動開閉

車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。

① スライドドアハンドル

② インサイドドアハンドル

パワースライドドアを使用する

パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、スライドドアの自動開閉が可能になります。

① OFF

② ON

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 107）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

◆ ワイヤレスリモコン

① 助手席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

② 運転席側パワースライドドアを開閉する（押し続ける）

スライドドアを解錠してから操作してください。

◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する

ドアが施錠されているとき：
電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。
電子キーが検知エリア内（→P. 125）にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：
電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。

② ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、作動を停止します。再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、反転作動します。

◆ インサイドドアハンドル

① 開ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

② 閉める

自動開閉作動中にハンドルを操作すると、作動が停止します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

◆ パワースライドドアスイッチ

スイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。

① 助手席側パワースライドドアを閉める

② 助手席側パワースライドドアを開ける

③ 運転席側パワースライドドアを閉める★

④ 運転席側パワースライドドアを開ける★

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は、作動が停止しません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

●パワースイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。

●スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。

●スライドドアイージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■パワースライドドア作動の合図

ブザーで知らせます。（開作動時に 1 回、閉作動中は継続）

■パワースライドドアの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアメインスイッチが ON になっている

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

パワースイッチが ON モードのときは、上記に加え、車速が約 3km/h 以下で次のいずれかの条件を満たしたときに、自動で開閉できます。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

●シフトポジションが P のとき

●パーキングブレーキがかかっているとき

●ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●スライドドアハンドル・インサイドドアハンドルを操作してパワースライドドアを作動させるときは、ブザーが鳴る位置まで確実にドアハンドルを操作してください。

●パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、パワースライドドアは作動しませんが、スライドドアは手動で開閉できます。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

●給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。
助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油扉を開けると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア）

●パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、ドアは約 10cm 反転作動したあとに停止します。

●挟み込み防止機能が作動してスライドドア停止したあと、パワースライドドアの作動を再開させるときは、作動させる方向によって次のように操作してください。

・逆方向に作動させる：
車外のスライドドアハンドルを引く、またはスライドドアハンドルのスイッチを押す
・開方向に作動させる：
車内のインサイドドアハンドルを開方向に操作する、またはパワースライドドアスイッチの OPEN 側を押す
・閉方向に作動させる：
車内のインサイドドアハンドルを閉方向に操作する、またはパワースライドドアスイッチの CLOSE 側を押す

挟み込み防止機能作動後、ワイヤレスリモコンまたは電子キーのスライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■予約ドアロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 102，120）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P. 102）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■補機バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■カスタマイズ機能

スライドドアハンドルスイッチの操作方法を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 432）

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

●シートベルトを必ず着用する

●走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■**お子さまを乗せているとき**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にパワースライドドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。

●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。傾斜した場所などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアにあたったり挟んだりしないよう、注意してください。

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

警告

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●スライドドアのアーム・レール・ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。

■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●スライドドアイージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチがOFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中に車内のドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

警告

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。

●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

警告

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたり、ハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

■挟み込み防止機能（パワースライドドア）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠注意

■スライドドアについて

●スライドドアのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながったりするおそれがあります。

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、スライドドアのボトルホルダーにジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

⚠注意

■スライドドアイージークローザーについて

- スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアのセンサーについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。（→ P. 111）
センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

バックドアの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 102

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 104

バックドアを開ける

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げてください。

バックドアを閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

知識

■バックドアイージークローザー★

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●パワースイッチのモードに関係なく、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、車外のバックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 レバーを押す

▶バックドアイージークローザー非装着車

▶バックドアイージークローザー装着車

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

IO32NA017

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

IO32NA018

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■バックドアイージークローザー★について

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザー★の故障を防ぐために

- バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。
- バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→ P. 102）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 120）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 170）

知識

■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ

③ ラゲージルーム外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

：　ドアの施錠・解錠時

運転席ドアハンドルセンサー・助手席ドアハンドルセンサー・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

：　ハイブリッドシステム始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況・対処方法
車外から “ピー”と5秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステム、もしくはワイヤレス機能で施錠しようとした **→全ドアを閉めたあと、再度施錠する**
車内から “ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた） **→パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める**

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 408）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネル・ドアポケット・フロア上、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 127）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

※ トヨタ販売店での設定変更が可能です。（→ P. 431）

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの解錠・施錠：→ P. 408

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 408

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 431）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 102, 408）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 408

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 171

警告

■**電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 125）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

セカンドシート

調整のしかた

① 前後位置調整 ※

② 前後左右位置調整 ※

③ リクライニング調整

※ レバーを 1 段階上げると前後位置調整、2 段階上げると前後左右位置調整ができます。

サードシートへの乗り降り

リクライニングレバー（①）を引く、または前倒しペダル（②）を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

警告

■シート調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートへの乗り降りについて

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●セカンドシートに乗員がいるときは、サードシートから操作を行わないでください。セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

●アームレストを格納してから操作してください。

サードシート

調整のしかた

リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

→P. 132

サードシートを格納する

→P. 142

知識

■バックドア側からリクライニング角度を調整するには

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。

警告

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

●中央席に座るときは、リクライニング角度を左右のシートで同じにしてください。
お守りいただかないと、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヘッドレスト

フロントシート／セカンドシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

サードシート外側席

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶フロントシート／セカンドシート

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

▶サードシート外側席

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

▶サードシート中央席

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロントシート／セカンドシート

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

▶サードシート外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、解除ボタンを押しながら押し下げてください。

▶サードシート中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート／セカンドシート）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■サードシート外側席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの格納について

ヘッドレストを取りはずしたときは、ラゲージルームの図の位置に格納してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

◆ フロントフラットソファモード

フロントシートをフルフラットにする（→ P. 141）

◆ リヤフラットソファモード

セカンドシート、サードシートをフルフラットにする（→ P. 142）

◆ ラゲージモード

サードシートを格納する（→ P. 142）

◆ スーパーリラックスモード

サードシートを格納し、セカンドシートを後方へ移動する（→ P. 144）

フロントフラットソファモードにする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 132）

3 フロントシートのヘッドレストをはずす（→ P. 137）

4 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 131）

5 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 131）

6 セカンドシートとのすき間がなくなるようにフロントシートを移動させる（→ P. 131）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

リヤフラットソファモードにする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 131）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 132）

4 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 137）

5 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 132）

6 サードシートのヘッドレストをはずす（→ P. 137）

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに格納してください。（→ P. 139）

7 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 134）

8 サードシートとのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる（→ P. 132）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

ラゲージモードにする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席のシートベルトを格納する（→ P. 28）

サードシート左右席のシートベルトを、シートベルトクリップに挟んでください。（→ P. 30）

3 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずす（→ P. 137）

取りはずしたヘッドレストは、ラゲージルームに格納してください。（→ P. 139）

4 サードシート左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 136）

5 スペースアップレバーを引いて、背もたれを前方に倒す

6 スペースアップレバーをさらに引いて、シートをはね上げる

シート脚部のロックが解除され、シートがはね上がります。

シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

7 固定ベルトを取り出し、ロック部に挿し込んでシートを固定する

シートを押しながらロック部に挿し込んでください。

8 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

スーパーリラックスモードにする

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 142）

3 スライドストッパーを取りはずす（→ P. 145）

4 セカンドシート外側のアームレストを倒す（→ P. 306）

サイドテーブルを使用しているときは格納してください。（→ P. 307）

5 セカンドシートの左右位置を両側ともそれぞれ車両中央側に移動し、後方へ移動させる（→ P. 132）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

知識

■ラゲージモードについて

サードシートを格納し、セカンドシートを前方に動かすことによりラゲージルームを広げることができます。

■サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■スライドストッパーについて

●サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。

●スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。（→ P. 381, 395）

① 取りはずし

② 取り付け

シートレールの後部に挿し込んだあと、シートレール内の穴（A）に挿し込んでください。

矢印が車の前方を向くように取り付けてください。

■シート固定ベルトをはずすとき

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押してください。

警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●必ず平坦な場所でシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートのあいだにシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

■サードシートの格納について

●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが、背もたれやシートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

●スペースアップレバーを引くとシート全体が自動的にはね上がりますので注意してください。

●シートを降ろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

⚠注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■サードシートの格納について

●シートを降ろすときは、床面にものがないことを確認してから行ってください。

●セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。

■フラットシートについて

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

■スライドストッパーについて

スライドストッパーは必ず正しい向きで取り付けてください（→ P. 145）。逆向きで取り付けた状態でシートをスライドさせると、レール部やストッパーなどが破損するおそれがあります。

ハンドル

調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時

警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 266）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 432）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチをONモードの状態で挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動したあと 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける、または「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 408）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 102）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機構などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 432）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 153）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 158
荷物を積むときの注意..... 169

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 170
EV ドライブモード..... 176
トランスミッション..... 179
方向指示レバー 184
パーキングブレーキ..... 185

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....186
フォグランプスイッチ 189
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....190
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....193

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....195

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense.....199
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....204
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）...216
オートマチックハイビーム ...223
先行車発進告知機能.....227

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール 230
ドライブモードセレクトスイッチ.....234
クリアランスソナー 236
パーキングサポートブレーキ（PKSB）.....244
運転を補助する装置.....249

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....255
寒冷時の運転.....257

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 170

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする（→ P. 179）

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。（→ P. 77）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 185）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトポジションは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P にします。（→ P. 180）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける

3 P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする（→ P. 180）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。（→ P. 77）

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。（→ P. 77）

2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 249）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 255）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 368）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R からD、DからR、NからR、PからD※、PからR※）とき（DはBポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

※ 状況によっては、操作できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P. 250）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転（ハイブリッドシステムインジケーター）

→P. 80

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 358を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 179）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■床下に衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。ブレーキ液や燃料のもれ、マフラーなど車体下部に損傷がないか確認してください。もれや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。
もれや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 379, 394 を参照してください。

⚠注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御関連部品が損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。P から他のシフトポジションに切りかえられないときは、前輪が固定されているため、けん引での移動はできません。（→ P. 360）

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●セカンドシート・サードシートのシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やセカンドシート／サードシート（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。（→ P. 179）

3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモード（→ P. 171）からでもハイブリッドシステムを始動できます。

4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→ P. 185）

3 P ポジションスイッチを押す（→ P. 180）

シフトポジション表示灯が P であることをメーターで確認します。（→P. 77）

4 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

5 ブレーキペダルから足を離して、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 62

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 100

■外気温が低いとき

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 127

■ご留意いただきたいこと

→ P. 128

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 69）
  トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトポジション表示灯の N が点灯しているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。必ず P にしてから始動してください。（→ P. 180）
  マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 371

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたとき

→ P. 336

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■自動 P ポジション切りかえ機能について

→ P. 182

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしてもアクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができます。システムが故障した場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

→ P. 408

警告

■**ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のハイブリッドシステム停止方法**

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P. 358)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。停車後にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションをPにし、パワースイッチを押してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していないときは、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 88）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 88）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

⚠警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方

① シフトレバー

シフトレバーは、ゆっくり確実に操作してください。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが ● の位置に自然にもどります。

D または R に切りかえるときは、ゲートにそってそのまま操作します。

N に切りかえるときは、右にスライドさせ、しばらく保持します。

B に切りかえるときは、下側に操作します。
シフトポジションが D のときのみ、B に切りかえが可能です。

P から N・D・R へ、または D から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

② シフトポジション表示灯

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D・B 以外のときは、シフトポジション表示灯の B 方向への矢印と B 表示が消灯します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

走行モードの選択

→ P. 234

P ポジションスイッチ

■ シフトポジションを P に切りかえる

車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押す

シフトポジションを P にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

シフトポジション表示灯で、P の位置が強調表示されていることを必ず確認してください。

■ P から他のシフトポジションに切りかえる

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえができません）
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

知識

■シフトポジションについて

●パワースイッチが OFF のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON モードで、READY インジケーターが消灯しているときは、N にのみ切りかえが可能です。シフトレバーを操作して D または R の位置で保持したときも N に切りかわります。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作してもPから他のシフトポジションに切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

●D 以外から直接、B に切りかえることはできません。

また、次に示す操作をするとブザーが鳴り、シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的に N に切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

●シフトポジションの切りかえを無効にするとき

・P からブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作したとき
・P または N から、B を選択したとき

●自動的にシフトポジションが N に切りかわるとき

・走行中に、P ポジションスイッチを押したとき ※1
・車両が前進しているときに R を選択したとき ※2
・車両が後退しているときに D を選択したとき ※3
・R から B を選択したとき

※1 極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

※2 低速走行時は、R に切りかわることがあります。

※3 低速走行時は、D に切りかわることがあります。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 160

■自動 P ポジション切りかえ機能について

パワースイッチが ON モードの状態でシフトポジションが P 以外のとき、車両を完全に停止させパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわり、パワースイッチが OFF になります。※

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。意図せぬ車両の急停止を防止するため、車両を完全に停止させてからパワースイッチを押してください。

■シフトポジションが P から切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P. 410 を参照してください。

■エンジンブレーキについて

●高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。

●強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→ P. 413

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、画面の指示に従って操作し直してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトレバー／ P ポジションスイッチについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。
  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーや P ポジションスイッチにふれないでください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムの異常警告メッセージが表示されたとき（→ P. 371）
- シフトポジションが強調表示されないとき

■シフトポジションの切りかえ操作について

P から P 以外、および P 以外から P への切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間 P からの切りかえができなくなることがあります。その場合は、約 20 秒待ってから操作し直してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折

知識

■ **作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■駐車するとき

→ P. 158

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 258

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

① AUTO ヘッドランプ・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチがONモードのとき）

② 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ 消灯

ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。
再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを ○ の位置にもどし、再度 または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが OFF のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後、すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 433）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

① ○ 消灯する

② 点灯する

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

① 停止

② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ 低速作動

④ 高速作動

⑤ 一時作動

を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。間欠作動の頻度は、車速に応じてかわります。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

増方向いっぱいまでまわした状態で車速が一定より高くなると、低速作動になります。

車速が一定より低くなると、間欠状態にもどります。

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

⑧ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動への影響があります。

●間欠時間

●ウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動の有無）

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① ○ 停止

② --- 間欠作動

③ — 通常作動

④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■リバース連動機能

フロントワイパーが ・ ・ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトポジションを R にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

リバース連動機能の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 433）

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■**燃料の種類**

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■**バイオ混合ガソリンについて**

エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■**給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）**

→ P. 111

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE 混合率 22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開く

2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

⚠ 警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 204

■ LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

→ P. 216

■ オートマチックハイビーム

→ P. 223

■ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→ P. 227

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー

② 前方カメラ

警告

■**前方センサーについて**

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW
パルス持続時間：33 ns
波長：905 nm
発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

警告

■前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）

●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）

●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 266）

●前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

●前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

■フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇りやすい状況のときには、ヒーターにより前方センサー周辺のフロントウインドウガラスが熱くなっていることがあり、ふれるとやけどをするおそれがあります。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く。 ・前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 266）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

●周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 204）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 208）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 210
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 213

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**プリクラッシュブレーキについて**

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 210）
・プリクラッシュセーフティを OFF にする（→ P. 208）

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 327, 332）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤ★やタイヤパンク応急修理キット★を使用しているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

パワー（イグニッション）スイッチを ON モードにするたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイに現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 213）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

●アクセルペダルを強く踏み込む ※

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15 km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

CTH45BM170

・右左折時に作動対象とすれ違ったとき

・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

CTH45BM171

・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき

・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

CTH45BM130

・前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき

CTH45BM082

・フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき

CTH45BM089

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

CTH45BM172

・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（ 急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき

・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両が自転車・オートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

LDA は、フロントウインドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。

車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。

警告

■**LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**誤作動を防ぐために**

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**LDA の故障、または誤作動を防ぐために**

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

設定のしかた

LDA を使用するにはLDA スイッチを押す

メーター内の LDA 表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●LDA を ON にしているとき

●車速が約 50km/h 以上のとき

●システムが白（黄）線を認識しているとき

●車線の幅が約 3m 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき

●システムの異常が検知されていないとき（→ P. 371）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 219）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオ★の音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 199）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不良などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示された場合は、対処方法に従って適切に対処してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
LDA 故障 販売店で 点検してください	システムが正常に作動しなくなっているおそれがある ※ → トヨタ販売店で点検を受けてください。
前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください	前方センサーの前のフロントウインドウガラスの汚れ・雨滴・結露・氷雪などが付着している → いったん LDA を OFF にして、汚れ・雨滴・結露・氷雪などを取り除いてから、再度 LDA を ON にしてください。
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください	前方センサーの作動条件（温度など）が満たされていない → 前方センサーの作動条件（温度など）が満たされると、LDA は使用可能になります。いったん LDA を OFF にして、しばらく待ってから、再度 LDA を ON にしてください。
LDA 約 50km/h 以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため LDA が使用できません。 → 約 50km/h より速い速度で走行してください。
LDA 現在の車速では 使用できません	車速が LDA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。 → 車速を落として走行してください。

※ 警告ブザーが鳴ります。

その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

警告メッセージが表示されても、通常の走行に支障はありません。

■LDA の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの または 画面で、車線逸脱機能の警報感度（「高い」・「普通」）を変更することができます。

▶ 画面での設定方法

1 画面（→ P. 84）がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている状態で、メーター操作スイッチの を押す

LDA 警報感度の設定画面が表示されます。

2 メーター操作スイッチの ／ を押して、ご希望の設定の位置にカーソルを移動し、 を押す

3 設定が終了したら、メーター操作スイッチの を押す

▶ 画面での設定方法

→ P. 92

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または にし、レバーを前方へ押す

2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方センサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- ●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車がオートバイ・自転車などのとき
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- ●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- ●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- ●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- ●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- ●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- ●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- ●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 92）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

●先行車発進告知機能の告知タイミング

クルーズコントロール

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトポジションが D のとき設定できます。

●車速が約 40km/h 以上のとき設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下したとき

●実際の速度が約 40km/h 以下になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC を OFF にしたとき（→ P. 250）

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行状況に応じて、走行モードを切りかえることができます。

走行モードについて

スイッチ操作により、次の各モードに切りかえることができます。

■ エコドライブモード※

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

ECO MODE スイッチを押すとエコドライブモードに切りかわり、メーター内のECO MODE表示灯が点灯します。

■ パワーモード※

山岳路などで、アクセルレスポンスのよい、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

PWR MODE スイッチを押すとパワーモードに切りかわり、メーター内の PWR MODE 表示灯が点灯します。

※ エコドライブモード・パワーモードともに解除された状態のときは、通常の走行に適した通常走行モードになります。

知識

■クルーズコントロールを使用して走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、クルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています（→ P. 269）。空調の効きをよりよくしたいときは、風量を調整するか、エコドライブモードを解除してください。

■エコドライブモード／パワーモードを解除するとき

- 各モードの選択後に再度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。
- エコドライブモードのときにパワーモードスイッチを押す、またはその逆の操作を行うと、あとから押したスイッチのモードに切りかわります。
- パワーモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除されます。
  エコドライブモードは、パワースイッチを OFF にしても自動解除されません。

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約10km/h以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、マルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 92）

ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンターセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ リヤセンターセンサー作動表示

距離表示の見方

マルチインフォメーションディスプレイ※	障害物までのおおよその距離		
	―	フロントコーナー＆フロントセンターセンサー	リヤコーナー＆リヤセンターセンサー
（点灯）	遠い ↑	約 100cm ～ 60cm（フロントセンターセンサーのみ）	約 150cm ～ 60cm（リヤセンターセンサーのみ）
（点灯）		約 60cm ～ 45cm	約 60cm ～ 45cm
（点灯）		約 45cm ～ 35cm	約 45cm ～ 35cm
（点滅）	↓ 近い	約 35cm 以下	約 35cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 237）

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

■ ブザー動作と障害物までの距離

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が約 35cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。
- フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。（→ P. 93, 433）

障害物を感知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

・感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

障害物を感知できる範囲を変更することができます。（→ P. 433）

知識

■クリアランスソナーの作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトポジションが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●フロントセンターセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトポジションが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー／リヤセンターセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトポジションが R にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

■ブザーの一時消音について

●ミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイに検知した画面が表示されているときにメーター操作スイッチの を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が自動解除されるとき：

・シフトポジションを切りかえたとき
・車速が約 10km/h をこえたとき
・センサー異常（断線／凍結）および使用不可（CAN 異常）が検出されたとき
・クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・パワースイッチを OFF にし、再度 ON モードにしたとき

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

●センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障　販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 433）

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください
- マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示された場合、センサーの状態を確認してください。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。

  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても感知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

●高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗浄機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

パーキングサポートブレーキ（PKSB）★

パーキングサポートブレーキは、駐車時などの低速走行時に衝突被害の軽減をサポートします。作動対象を検知した場合、システムがハイブリッドシステムの出力を抑制したり、ブレーキをかけたりします。

パーキングサポートブレーキが作動するのは以下のような状況です。

- 後退時や低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき
- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

パーキングサポートブレーキは以下の順に作動します。

1 作動対象を検知したとき、急発進・急加速をしないように、ハイブリッドシステムの出力を抑制します

2 急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき、システムがブレーキをかけます

システムが作動したときは、ブザーやメッセージでお知らせします。

警告

■**パーキングサポートブレーキを安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキは、状況によっては作動しない場合もあります。

パーキングサポートブレーキは、完全に車両を停止させるシステムではありません。パーキングサポートブレーキにより車両が停止したら、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

作動対象とセンサーの種類

■ 静止物

→ P. 236

パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF を切り替える

メーター操作スイッチを使って、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF を切り替えられます。

1 マルチインフォメーションディスプレイ上で を選択する

2 を選択し、 を押す

パーキングサポートブレーキが OFF になると PKSB OFF 表示灯が点灯します。

警告

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 洗車機を使用するとき
- 純正品以外のサスペンション、タイヤを取り付けたとき
- 車高が著しく変化しているとき
- けん引フックを取り付けるとき
- シャシーダイナモを使用するとき
- 船舶・トラックへ積載する際に進入するとき

パーキングサポートブレーキを復帰させる

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキが停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

パーキングサポートブレーキを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作をしてください。

- 再度、パーキングサポートブレーキを ON にする
- パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON モードにする

以下のときは、システムが自動的に復帰します。

- 作動対象が検知できなくなってから、車両を動かしたとき
- 車両の進行方向を切り替えたとき、またはシフトポジションを P にしたとき

PKSB OFF 表示灯が点滅した場合は

マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示されたときは、以下の方法で正常に復帰させることができます。

- センサーに汚れ・雪・氷が付着している場合は、センサーの汚れ・雪・氷を取り除いてください。低温時にはセンサーの凍結により異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- 補機バッテリーを脱着したあとは、パーキングサポートブレーキを一時的に使用できません。一定時間走行することで、メッセージが消灯し、パーキングサポートブレーキを使用できるようになります。

知識

■パーキングサポートブレーキの作動開始条件

パーキングサポートブレーキが作動する条件は、作動対象によって異なります。

以下の条件を全て満たすと、パーキングサポートブレーキが作動します。

●PKSB OFF 表示灯が消灯しているとき

●車速が 15km/h 以下のとき

●車両進行方向の約 3m 先までに静止物があるとき

■パーキングサポートブレーキの作動解除条件

パーキングサポートブレーキの作動が解除される条件は、作動対象によって異なります。以下の条件のいずれかを満たすと、パーキングサポートブレーキの作動が解除されます。

●パーキングサポートブレーキにより車両が停止してからブレーキペダルを踏んだとき

●パーキングサポートブレーキにより車両が停止してから約 2 秒後

■パーキングサポートブレーキが検知しないおそれのある作動対象

●歩行者

●雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

●背の低いもの

●標識の支柱などの細いもの

●バンパーと距離が近いもの

■パーキングサポートブレーキが正常に作動しないおそれのある状況

●センサー周辺が著しく高温または低温のとき
●センサーに汚れ・雪・氷が付着したとき
●雪などの悪天候のとき
●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
●自転車などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
●オートバイのエンジン音など超音波を発生するものが付近にあるとき
●センサー付近に市販の電装部品を取り付けたとき
●シフトポジションがＮのとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●車高が著しく変化しているとき
●センサーの位置や向きがずれているとき

■衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキが作動する状況

●狭い道路を走行しているとき
●砂利道など、平坦な舗装路以外を走行しているとき
●遮断機などに向かって走行するとき
●狭いトンネルなど、道路わきに構造物があるとき
●縦列駐車するとき
●わだちや穴がある道路を走行するとき
●グレーチング上を走行するとき
●センサーに汚れ・雪・氷が付着したとき
●雪などの悪天候のとき
●オートバイのエンジン音など超音波を発生するものが付近にあるとき
●センサー付近に市販の電装部品を取り付けているとき
●車両姿勢が大きく傾いたとき
●車高が著しく変化しているとき
●センサーの位置や向きがずれているとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに TRC OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには TRC OFF を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 TRC OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ TRC OFF を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■TRC の自動復帰について

TRC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●車速が高くなったとき

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションを P または N にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC を OFF にするときは

TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC を作動停止状態にしないでください。TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 429）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 234）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 80）

◆ シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 327）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め ※ をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン.....262
リヤオートエアコン.....273
リヤクーラー.....277
シートヒーター
（快適温熱シート）.....280

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....282
・インテリアランプ.....283
・フロント
パーソナルランプ.....283

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....285
・グローブボックス.....287
・コンソールボックス.....287
・カップホルダー.....288
・ボトルホルダー.....289
・ドアポケット.....290
・小物入れ.....291
・オープントレイ.....292
ラゲージルーム内装備.....293

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....296
・サンバイザー.....296
・バニティミラー.....296
・時計.....296
・アクセサリーソケット.....297
・アクセサリー
コンセント.....298
・充電用 USB 端子.....304
・アームレスト.....306
・折りたたみ式テーブル.....307
・買い物フック.....309
・アシストグリップ.....310
・後席用サンシェード.....311
・ステアリングスイッチ.....311

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントオートエアコン操作スイッチについて

エアコンの設定内容は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 81）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは の を、減らすときは を押す

送風を止めるときは、OFF を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風･フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 冷房・除湿機能を使用する

を押す

押すたびに冷房・除湿機能の ON ／ OFF が切りかわります。

冷房・除湿機能が ON のときは、

の作動表示灯が点灯します。

■ S-FLOW モード

を押す

リヤオートエアコン★またはリヤクーラー★への送風を止め、フロント席のみの送風に切りかえます。

助手席に乗員がいない場合は設定温度・外気温などを判断して、運転席のみに送風します。（状況によっては、助手席・リヤ席にも送風する場合があります）

S-FLOW モードのときは、

の作動表示灯が点灯します。

再度

を押すか、リヤオートエアコン★のスイッチを操作すると、前のモードにもどります。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 264）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 266）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜を取る（→ P. 266）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1

を押す

2 温度を設定する

3

を押す

押すたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

4 送風を止めたいときは、

を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、

の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

●

を押す

●

の∧または∨を押して、助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり

の作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、
の作動表示灯が点灯します。

■ フロント席からリヤオートエアコンを操作するには（リヤオートエアコン装着車）

REAR を押す

マルチインフォメーションディスプレイのエアコン表示部に「REAR」が表示され、リヤオートエアコン操作モードに切りかわります。

再度 REAR を押すか、約 10 秒以上操作が行われなかったときは、リヤオートエアコン操作モードが解除されます。

● 設定温度をかえる

設定温度を上げるときは PASSENGER / REAR TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

● 風量をかえる

風量を増やすときは の を、減らすときは を押す

送風を止めるときは、OFF を押します。

● 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

● オート設定で使用する

AUTO を押す

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

フロントウインドウガラスと運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわる場合もあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

風向きの調整

ノブを上下左右に動かしてください。

▶ 左右吹き出し口

風向きの調整

ノブを上下左右に動かしてください。

① 吹き出し口を閉じる

ノブを外側いっぱいに“カチッ”と音がするまで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。

② 吹き出し口を開ける

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 272）でフロントウインドウガラスの曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■駐車時外気導入システム

駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エコドライブモード（→ P. 234）のエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は自動的に外気導入になります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■「ナノイー」※1 について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※2。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が、または のとき

・運転席外側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 333

■ステアリングスイッチによるフロントエアコンの設定について

→ P. 90

■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 433）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

■**リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき**

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■**「ナノイー」★について**

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■**補機バッテリーあがりを防ぐために**

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■**湿度センサーについて**

フロントウインドウガラスの曇り検知（→P. 269）のためにフロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。
センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない

■**「ナノイー」★の損傷を防ぐために**

運転席外側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤオートエアコン★

リヤオートエアコン操作スイッチについて

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは の を、減らすときは を押す

送風を止めるときは、OFF を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

オート設定で使用する

1

を押す

2 温度を設定する

3 送風を止めたいときは、

を押す

■ オート設定時の作動表示について

風量や吹き出し口を切りかえると、ディスプレイ部の AUTO 表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きの調整

① 吹き出し口を閉じる

ノブを車両後方側いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。

② 吹き出し口を開ける

知識

■フロント席からリヤオートエアコンを操作する

フロントオートエアコン操作パネルの REAR を押すことにより、フロント席からリヤオートエアコンの操作ができます。（→ P. 265）

■リヤオートエアコンの作動条件について

フロントオートエアコンが停止しているときは、冷房・除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ステアリングスイッチによるリヤオートエアコンの設定について

→ P. 90

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、リヤオートエアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

リヤクーラー★

リヤクーラー操作スイッチについて

■ 風量をかえる

▶ 自動設定

1 フロントオートエアコン操作パネルの REAR を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON ／ OFF が切りかわります。

2 風量切りかえツマミを AUTO へ動かす

▶ 手動設定

1 フロントオートエアコン操作パネルの REAR を押す

スイッチを押すたびにリヤクーラーの ON ／ OFF が切りかわります。

2 風量切りかえツマミを右（増）か左（減）へ動かす

風量は 3 段階に調整できます。

フロントオートエアコン操作パネルの REAR を押す、または風量切りかえツマミを OFF にすることでリヤクーラーの作動を停止できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

風向きの調整

① 吹き出し口を閉じる

ノブを車両後方側いっぱいまで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。

② 吹き出し口を開ける

知識

■AUTO 設定での風量について

AUTO でのリヤクーラーの風量は、フロントオートエアコンの温度設定によってかわります。

■リヤクーラーの作動条件について

フロントオートエアコンが停止しているときは、冷房機能は作動せず、送風のみになります。

■換気とリヤクーラーの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- リヤクーラー使用中に、車室内外のさまざまな臭いがリヤクーラー装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- リヤクーラー始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはリヤクーラー始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、リヤクーラーを必要以上に使用しないでください。

シートヒーター（快適温熱シート）★

フロントシートを暖めることができます。

▶ アクセサリーコンセント非装着車

① HI（強）

② LO（弱）

押した側のインジケーターが点灯します。

OFF にするときは、押されていない側を軽く押して、スイッチを中立の位置にしてください。

▶ アクセサリーコンセント装着車

① HI（強）

② LO（弱）

押した側のインジケーターが点灯します。

OFF にするときは、押されていない側を軽く押して、スイッチを中立の位置にしてください。

知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モードのとき
- 使用しないときはスイッチを OFF（中立の状態）にしてください。インジケーターが消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターにふれないようにご注意ください。
  - ・乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
  - ・皮膚の弱い方
  - ・疲労の激しい方
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しない
  - ・毛布・クッションなどを使用しない

注意

- シートヒーターの故障を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態でシートヒーターを使用しないでください。

室内灯一覧

① インテリアランプ（センター／リヤ） （→ P. 283）

② インテリアランプ（フロント）／パーソナルランプ （→ P. 283）

インテリアランプ

■ フロント

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

③ ランプを点灯する

■ センター／リヤ

① ランプを消灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

③ ランプを点灯する

フロントパーソナルランプ

① ランプを点灯する

② ランプを消灯する

知識

●イルミネーテッドエントリーシステム：

インテリアランプのスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

●パワースイッチが OFF のとき室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

●室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 434）

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

① ボトルホルダー （→ P. 289）
② ドアポケット （→ P. 290）
③ カップホルダー （→ P. 288）
④ グローブボックス （→ P. 287）
⑤ 小物入れ （→ P. 291）
⑥ オープントレイ★ （→ P. 292）
⑦ コンソールボックス※ （→ P. 287）

※ コンソールボックスは、グレードにより形状が異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

レバーを引いて開ける

コンソールボックス

▶ アクセサリーコンセント非装着車

フタを持ち上げて開く

▶ アクセサリーコンセント装着車

フタを持ち上げて開く

カップホルダー

■ フロントシート

カップホルダーを引き出す

カップホルダーは２段階に引き出すことができます。

カップトレーを格納することで、小物入れとしても使用することができます。（→ P. 291）

■ セカンドシート

▶ シートバックテーブル

助手席の背面にあるシートバックテーブルを起こし（→ P. 307）、カップホルダーを下ろす

▶ サイドテーブル

サイドテーブルを起こす（→ P. 307）

⚠ 警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキ※や事故により落ちてけがをするおそれがあります。
  やけどを防ぐために、温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

※ 走行中はシートバックテーブルのカップホルダーは使用しないでください。（→ P. 308）

- シートバックテーブル・サイドテーブル：折りたたみ式テーブル（→ P. 307）の注意事項も併せてお読みください。

ボトルホルダー

▶ フロントシート

▶ セカンドシート

▶ サードシート

知識

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ドアポケット

▶ フロントドア

▶ スライドドア

注意

スライドドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりではなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷が付いたり、故障につながったりするおそれがあります。

小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール

押して開ける

▶ 助手席アッパーボックス

フタを開ける

▶ カードホルダー

▶ 運転席ロアボックス

引いて開ける

▶ センターマルチトレイ

カップホルダーを引き出し、カップトレーを格納する

知識

センターマルチトレイ小物入れに、500ml サイズの紙パックを置くことができます。1000ml サイズの紙パックは倒れるおそれがあるため、置かないでください。

警告

オーバーヘッドコンソールに 200g 以上のものを入れないでください。
200g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイ★

警告

オープントレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

小物入れ

■ ラゲージボックス

1 デッキボードを上げる

2 デッキボードの裏からフックを取りはずし、図のようにデッキサイドまたはヘッドレストのステーにかける

■ サイドボックス★

ツマミをUNLOCKの位置までまわして開ける

閉めるときは、ツマミを LOCK の位置までまわして、フタが固定されていることを確認してください。

知識

■ラゲージボックスについて

ラゲージボックスに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさ、形によっては、収納できないことがあります。

■デッキボードについて

先端を持ち上げて手前に引くことで、デッキボードを取りはずすことができます。

注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

デッキフック

デッキフックを使って荷物を固定することができます。

警告

使用後は、デッキフックを必ずもとの位置にもどしてください。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。

時計（→ P. 81）

ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時” を調整する

② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする ※

※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00

知識

- パワースイッチが ON モードのとき、時刻が表示されます。
- 補機バッテリー端子の脱着をしたときは、時計のデータはリセットされます。
- ステアリングスイッチによる時刻調整：→ P. 91

アクセサリーソケット

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

▶ アクセサリーコンセント非装着車

フタを開けて使用する

▶ アクセサリーコンセント装着車

フタを開けて使用する

知識

作動条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント★

AC100 V で最大消費電力 1500 W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

スイッチを押すたびに電源の ON ／ OFF が切りかわります。

2 フタを開けて使用する

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。

▶ コンソールボックス後方

▶ ラゲージルーム

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するとき

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■使用しないとき

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。複数の電気製品を使用するときは、すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力合計を 1500W 以下にしてください。
  規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチをONにした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、コンソールボックスの下から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないとき

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 88）。残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。

●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するとき

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●走行中は助手席で電気製品を使用しないでください。助手席 SRS エアバッグが作動した際に電気製品が助手席から飛び出すなどして、けがをするおそれがあります。

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

警告

■駐車中または停車中に使用するとき

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

●車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 58）

●状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近付けないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

●アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。なお、次のような機器は使用しないでください。

●医療用機器
車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。

●計量器・計測器など
AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

⚠注意

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

充電用 USB 端子

DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

▶ インストルメントパネル

フタを開けて使用する

① アクセサリーコンセント非装着車

② アクセサリーコンセント装着車

▶ コンソールボックス後方

フタを開けて使用する

① アクセサリーコンセント非装着車

② アクセサリーコンセント装着車

知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アームレスト

▶ フロントシート

手前に倒して使用する

▶ セカンドシート

手前に倒して使用する

知識

アームレストを倒したときの角度を一段下げることができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

アームレストの損傷を防ぐために、過度な負荷をかけないでください。

折りたたみ式テーブル

▶ シートバックテーブル

使用するときは、テーブルを起こす

テーブルが固定されていることを確認してください。

格納するときは、ロック解除ボタンを押して、テーブルが固定される位置まで確実に押し下げてください。

▶ サイドテーブル

使用するときは、テーブルを起こす

テーブルが固定されていることを確認してください。

格納するときは、テーブルが固定される位置まで確実に押し下げてください。（ロック解除ボタンはありません）

知識

サイドテーブルを使用するときは、両側のセカンドシート左右位置を、それぞれ外側に調整してください。（→ P. 132）

警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 折りたたみ式テーブルを操作するときは、手を挟まないように注意してください。
- 折りたたみ式テーブルにもたれかかったり、ひじや手をついたりしないでください。
- 折りたたみ式テーブルを使用または格納するときは、確実に固定されていることを確認してください。
- シートバックテーブル：走行中はテーブルを格納し、使用しないでください。
急ブレーキや衝突時などに、テーブルに体があたったりして、けがをするおそれがあります。
- シートバックテーブル：テーブルを使用するときは、テーブル上・カップホルダーを含めて、合計 5kg 以上のものを置かないでください。
テーブルが急に格納されたり破損したりして、けがをするおそれがあります。
- シートバックテーブル：テーブルを使用中は、フロントシートの調整をしないでください。
- シートバックテーブル：セカンドシートで子供専用シートを使用しているときは、テーブルを使用しないでください。
- サイドテーブル：サイドテーブルを使用するときは、テーブル上・カップホルダーを含めて、合計 3kg 以上のものを置かないでください。
テーブルが急に格納されたり破損したりして、けがをするおそれがあります。

買い物フック

使用するときは、下側を押してフックを起こす

警告

- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- 買い物フックの破損を防ぐために、4kg以上のものをフックに吊り下げないでください。
  フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

① アシストグリップ（大人用）

② アシストグリップ（子供用）

警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

後席用サンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。

注意

正常に機能させるために、次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードのスクリーン部にものを貼らない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない
  傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取り扱い説明書をご覧ください。

警告

事故を防ぐために、運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....314
内装の手入れ.....318
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 321
ガレージジャッキ.....324
ウォッシャー液の補充.....325
タイヤについて.....327
タイヤ空気圧について 331
エアコンフィルターの交換 ...333
キーの電池交換.....336
ヒューズの点検・交換 339
電球（バルブ）の交換.....342

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワースライドドアを停止する（→ P. 107）
車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●バックドア内に水が入るおそれがあるため、ライセンスプレートランプ部とノズル先端の距離を十分離してください（約 50 cm 以上）。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー & スタートシステムの作動を停止する（→ P. 127）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

→P. 202

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

●駆動系部品

●ステアリング部品

●サスペンション部品

●ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

  水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラス・リヤクォーターガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 64）
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 34）
  電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオ★やフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス・リヤクォーターガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラス・リヤクォーターガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

開け方

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

閉め方

1 ボンネットステーをはずす

2 ボンネットを約 20 ～ 25cm の位置から静かに落として閉める

3 ロックされていることを確認する

知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーは、ラゲージボックス（→ P. 293）内に設置されたカバーの下にあり、エンジンルームには搭載されていません。（→ P. 413）

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 410）

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

警告

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

→P. 416

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側

◆ リヤ側

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充してください。

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	前輪	後輪
195/65R15 91S	240 kPa（2.4 kg/cm^2）※	
205/55R16 91W		

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- ●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- ●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- ●ほかの車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●破裂などの修理できない損傷を与える
- ●車両が横すべりする
- ●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- ●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 429）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正がどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる

4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。

5 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

6 フィルターを交換する

▶ 寒冷地仕様車を除く

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

▶ 寒冷地仕様車

① フィルターケースを取りはずす

② フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 333）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く

2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ エンジンルーム（2）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元

ヒューズボックスのカバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 342）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 429）

パワースライドドアの作動停止

→ P. 107

バルブ位置

■ フロント

フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

① 番号灯

② リヤ方向指示灯／非常点滅灯

③ 後退灯

電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ボンネットを開ける（→ P. 321）

2 ソケットをまわして取りはずす

3 電球を取りはずす

4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯

1 バックドアを開ける（→ P. 120）

2 ボルト（2 個）をはずす

3 図のように手をかけ、車両後方に向ってランプ本体を引き、ランプ本体の固定をはずす

ランプ本体は、ピン（2ヶ所）で固定されています。

4 ランプ本体のクリップ（2ヶ所）から配線をはずし、ツメを押してコネクターをはずす

5 ソケットをまわして取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

後退灯の電球を交換するときは、ソケットをまわす前に、クリップから配線をはずします。

6 電球を取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

7 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

後退灯のソケットを取り付けたあとは、配線をもとどおりにクリップで固定します。

8 配線がすべてのクリップに正しく固定されていることを確認する

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

作業中に配線がはずれてしまった場合は、もとどおりにクリップで固定します。

9 コネクターを接続し、ランプ本体のクリップに配線をもとどおり取り付ける

10 車体の取り付け部にピンを合わせてランプ本体を取り付け、ボルト（2 個）で固定する

■ 番号灯

1 レンズを取りはずす

① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

② 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。

2 電球を取りはずす

3 新しい電球を取り付ける

4 レンズを取り付ける

① レンズを左右どちらかのかん合部に引っ掛ける

② レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズを軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- フロントフォグランプ ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 車幅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯・番号灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯を交換するとき

制動灯／尾灯の消灯直後は、制動灯／尾灯裏側の放熱板が高温になるため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....354
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....355
発炎筒.....356
車両を緊急停止するには.....358
水没したときは.....359

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....360
警告灯がついたときは.....366
警告メッセージが表示
されたときは.....371
パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）.....379
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....394
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....406
電子キーが正常に働かない
ときは.....408
補機バッテリーが
あがったときは.....410
オーバーヒートしたときは...417
スタックしたときは.....422

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 355）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 356）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する

2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※：詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→ P. 173, 378）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→ P. 69）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→ P. 408）
- 補機バッテリーがあがったとき（→ P. 410）

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにハイブリッドシステムの異常を示すメッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは

パーキングブレーキを解除する

▶ うしろ向きにけん引するときは

台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

他車にけん引してもらうとき

1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm×30 cm）以上

3 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

パーキングサポートブレーキ★を OFF にしてください。（→ P. 245）

4 けん引される車両のシフトポジションを N※ にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

※ シフトポジションの切りかえができない、または現在のシフトポジションが確認できない場合は、トヨタ販売店または専門業者にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■輸送用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうときに使用することができます。他車をけん引することはできません。

■輸送用フックの取り付け方

1 マイナスドライバーを使ってフタをはずす
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

2 輸送用フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

3 ホイールナットレンチ※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ ラゲージルームに搭載されています。
（→ P. 381, 395）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●輸送用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1, 2）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・回生ブレーキの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	油圧警告灯（警告ブザー ※3） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常 **→ ただちに安全な場所に停車してください。（対処方法：→ P. 417）**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ 要因と対処方法（→ P. 203, 377）**
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** TRC・VSC・ABS の作動時には、点滅します。（→ P. 250）
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー）** 警告ブザーが鳴った場合： パーキングサポートブレーキの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らなかった場合： システムが一時的に使用できません。（→ P. 246）
	ヘッドランプオートレベリング警告灯 自動光軸調整システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー ※4） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 6.2L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※5） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 371**
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ※6 ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ・ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール警告灯 ※6** ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ・ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** パーキングサポートブレーキ（PKSB）★作動時にも点灯します。（→ P. 244）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 ブレーキフルード低下警告ブザー：
ブレーキフルードが不足している状態で車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※3 油圧警告ブザー：
油圧警告灯が点灯している状態で車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※4 半ドア走行時警告ブザー：
いずれかのドアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※5 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※6 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ★の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。※

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

※ メッセージの内容によっては、マスターウォーニングが連動しない場合があります。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージ、または画像が表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「プリクラッシュセーフティ現在使用できません」が表示されている：
PCS（プリクラッシュセーフティ）警告灯が点滅します。（→ P. 367）

●「給油してください」が表示されている：
燃料残量警告灯が点灯します。（→ P. 368）

●いずれかのドアが開いていることを示す画像が表示されている（停車中）：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 368）

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）の作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

●ドライブスタートコントロール・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 159, 160）。
画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり（→ P. 181）、シフト操作が指示されたりすることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●「エンジン油圧不足　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリ系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」

●「補機バッテリ（始動用）充電不足　取扱書を確認してください」が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→ P. 376）

■「シフト系故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」または「シフト系通信故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 378）

■「P スイッチ故障　駐車時はパーキングブレーキをかけ　取扱書を確認」が表示されたとき

P ポジションスイッチが働かない可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

■「シフト系故障 シフト切りかえできません 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムの故障が発生しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを P から P 以外に切りかえられない可能性があります。

■「シフト系故障 安全な場所に停車して 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを切りかえられない可能性があります。安全な場所に停車してください。

■「シフト系故障 取扱書を確認」が表示されたとき

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

放置すると、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。

■「補機バッテリ充電不足 駐車時パーキングブレーキをし 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーが充電不足です。補機バッテリーを充電または交換してください。

- このメッセージが表示された場合、始動操作やシフトポジションの切りかえ操作などが正常に行えないおそれがあります。（対処方法：→ P. 378）
- 補機バッテリー充電後も、シフトポジションを P から P 以外に切りかえるまでメッセージが表示され続ける場合があります。

■「補機バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書を確認」が表示されたとき

補機バッテリーの電圧が低下したため、シフトポジションの切りかえができなくなっています。補機バッテリーを充電、または交換してください。
（補機バッテリーあがりの対処方法：→ P. 410）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 417

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたとき

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。トヨタ販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください。

■「補機バッテリ（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたとき

●数秒後※に表示が消えたときは

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 410）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

一定時間シフトポジションが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションを P にしてハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「N レンジに切りかえました P にする場合は 停車し P スイッチ操作」が表示されたとき

走行中に P ポジションスイッチを押したとき、自動的にシフトポジションが N に切りかわり、このメッセージが表示されます。（→ P. 181）

■「バッテリ保護のため自動で電源を OFF しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「前方カメラ一時使用不可 しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法：→ P. 203, 366）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）
- オートマチックハイビーム
- 先行車発進告知機能

■警告メッセージが表示され、シフトポジションを変更できなかったり、パワースイッチを操作してOFFにしようとしてもアクセサリーモードになったりするときは

補機バッテリーが充電不足になったり、シフト制御システムが故障してしまったりした場合、次のような現象が起こる場合があります。

●シフトポジションを P に切りかえられない可能性があります。
駐車する場合は平坦な場所を選び、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●ハイブリッドシステムを始動できない可能性があります。

●パワースイッチを操作して OFF にしようとしても、アクセサリーモードになることがあります。
その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると、OFF にすることができます。

●自動 P ポジション切りかえ機能（→ P. 182）が働かない可能性があります。
パワースイッチを OFF にする前に、確実に P ポジションスイッチを押し、シフトポジション表示灯または P ポジションスイッチの作動表示灯で、シフトポジションが P であることを必ず確認してください。

■警告ブザーについて

→ P. 369

⚠注意

■「電装品作動制限中」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリ（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 380）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■**タイヤがパンクしたときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 355）
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする（→ P. 107）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
※ ジャッキの使い方（→ P. 399）
④ 輸送用フック（→ P. 363）
⑤ ジャッキ ※
⑥ タイヤパンク応急修理キット

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 空気圧計
④ スイッチ
⑤ 電源プラグ
⑥ 速度制限ラベル
⑦ パンク補修液注入済ラベル

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 ノブを “ UNLOCK ” の位置にしてカバーを取りはずす

2 固定バンドをはずし、応急修理キットを取り出す

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

3 ボトルの保護フィルムをはがしホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているパンク補修液注入済みラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順9へ）

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

5 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグを取り出す

7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 297）

▶ アクセサリーコンセント 非装着車

▶ アクセサリーコンセント 装着車

8 速度制限ラベルをはがす

9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 328）

12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 390）

15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

BTO72CP072

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

▶ アクセサリーコンセント
非装着車

IO72NA014

▶ アクセサリーコンセント
装着車

IO72NA051

21 コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。
トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→P. 429）の場合：手順23 へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行く

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。
有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・再度、空気圧を測ってください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 327 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- P ポジションスイッチを押して、シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 355）
- パワースライドドアメインスイッチを OFF にする（→ P. 107）

応急用タイヤ・ジャッキ・工具の搭載位置

① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ 輸送用フック（→ P. 363）
⑤ ジャッキ
⑥ 応急用タイヤ

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ・工具の取り出し方

1 デッキボードを開く（→ P. 293）

2 カバーをはずす

3 固定バンドのフックをはずし、工具袋を取り出す

4 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

応急用タイヤの取り出し方

1 助手席側のサードシートを格納する（→ P. 142）

2 デッキボードを取りはずす（→ P. 294）

3 応急用タイヤを取りはずす

① タイヤカバーを取りはずす

② 留め具を取りはずす

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）

警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

3 ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→P. 107）をOFFにしてください。OFFにしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 329）

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

アルミホイールからアルミホイールにかえるときは、ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。

3 車体を下げる

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）

5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに収納してください。

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→ P. 429）

■応急用タイヤを装着しているとき

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■**応急用タイヤを使用するとき**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LDA（レーンディパーチャーアラート）
・オートマチックハイビーム
・クルーズコントロール
・クリアランスソナー★
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 170）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→ P. 408）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。※（→P. 69）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※
  （→ P. 173, 378）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 407）

※ P ポジションから切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 410）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 322）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 322）
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 410）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. パワースイッチをアクセサリーモードにする
3. ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 127）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 99）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 432）

ハイブリッドシステム始動の方法

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する（→ P. 170）

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 336）

■モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 171）

■電子キーが正常に働かない場合

電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P. 127）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 ボンネットを開けて(→P. 321)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします。

2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

3 ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→ P. 435）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→ P. 322

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーを再接続したときは、ハイブリッドシステムを始動させ、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションがすべてのポジションに切りかえられることをシフトポジション表示灯で確認してください。

●シフトポジションがPの状態で補機バッテリーがあがった場合は、Pから他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
（→ P. 360）

■補機バッテリーを点検・交換するとき

次の要領で補機バッテリーのカバーを取りはずします。

1 デッキボードを取りはずす（→ P. 294）

ラゲージボックス（→ P. 293）内に、補機バッテリーのカバーが設置されています。

2 カバーの端をつかんで、まっすぐに引き上げる

カバーはクリップ（3 個）で固定されています。

補機バッテリーの点検・交換後は、必ずもとどおりにカバーを取り付けてください。

■補機バッテリーを交換するとき

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（51Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（380A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

① 排気穴
② 排気穴栓
③ 排気ホース
④ 排気穴
⑤ 車両穴部

詳細が不明な場合や、補機バッテリーについては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

警告

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■補機バッテリーを交換するときは

液栓やインジケーターがステーと近いと、バッテリー液がもれ出すおそれがあります。

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援しないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 366）が点滅または点灯したり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）
④ ラジエーターキャップ

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON ／ OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “F”（上限）

③ “L”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。

6 ハイブリッドシステムを停止してから５分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトポジションを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

TRC OFF を押してTRCをOFFにしてください。

■シフトポジションを切りかえるときは

ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。
リジェクト機能が働き、シフトポジションの切りかえを無効にする場合や、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。

警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....426
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....431
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....435

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	50

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20※2 —API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.9	4.2

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>指定銘柄</th><th colspan="3">容量［L］（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">トヨタ純正スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　－ 12℃
濃度 50%　－ 35℃</td><td rowspan="2">ガソリンエンジン</td><td>リヤオートエアコン非装着車</td><td>5.7</td></tr>
<tr><td>リヤオートエアコン装着車</td><td>7.5</td></tr>
<tr><td colspan="2">パワーコントロールユニット</td><td>2.9</td></tr>
</table>

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	3.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	107 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N（30.6kgf）のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	195/65R15 91S	15×6J	240（2.4）	
	205/55R16 91W	16×6J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T135/80D16 101M	16×4T	420（4.2）	

電球（バルブ）※1

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	インテリアランプ／パーソナルランプ	5
	インテリアランプ（センター／リヤ）	8
	バニティミラーランプ	8

※1 表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ノア	ZWR80G	2ZR-FXE （1.8L ガソリン）	5JM	FF （前輪駆動）
	ZWR80W			

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

■ メーター照明（→ P. 77）

機能の内容	初期設定	変更後
周囲の明るさにより、メーターの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－２～＋２

■ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスドアロック（→ P. 98, 125）

機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー＆スタートシステムの作動	あり	なし
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル５	OFF
		レベル１～７
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー	あり	なし
連続ロック操作の有効回数	２回	無制限
ワイヤレス機能	あり	なし

■ パワースライドドア（→ P. 106）

機能の内容	初期設定	変更後
スライドドアハンドルスイッチの操作	0.3 秒	0.5 秒
		0.8 秒
		OFF

■ ドアミラー（→ P. 151）

機能の内容	初期設定	変更後
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし
		パワースイッチと連動

■ パワーウインドウ（→ P. 153）

機能の内容	初期設定	変更後
メカニカルキーでのドアロック連動開閉機能（開）	なし	あり
メカニカルキーでのドアロック連動開閉機能（閉）	なし	あり
ワイヤレスリモコンでのドアロック連動開閉機能（開）	なし	あり
ワイヤレスリモコンでのドアロック連動開閉機能（閉）	なし	あり
パワーウインドウ開警告表示	あり	なし
ワイヤレスリモコン連動作動合図（ブザー）	あり	なし

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 186）

機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度	標準	− 2 ～ +2
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め

■ クリアランスソナー★（→ P. 236）

機能の内容	初期設定	変更後
ブザー音量 ※	レベル 2	レベル 1
		レベル 3
フロントセンターセンサーの感知可能距離	遠い	近い
リヤセンターセンサーの感知可能距離	遠い	近い

※ マルチインフォメーションディスプレイでも設定を変更できます。（→ P. 92）

■ パーキングサポートブレーキ★（→ P. 244）

機能の内容	初期設定	変更後
静止物の検知 ※	ON	OFF
静止物を検知する距離	標準	近い

※ マルチインフォメーションディスプレイでも設定を変更できます。（→ P. 92）

■ リヤワイパー（→ P. 193）

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	あり	なし

■ フロントオートエアコン（→ P. 262）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 282）

機能の内容	初期設定	変更後
消灯までの時間	15 秒	OFF※
		7.5 秒
		30 秒
パワースイッチを OFF にしたときの作動	あり	なし
解錠時の照明の点灯	あり	なし
接近時の照明の点灯	あり	なし
室内照明の点灯制御	あり	なし

※ OFF の設定は室内照明の点灯制御で切りかえができます。

知識

■車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照先
パワースライドドア	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P. 112
パワーウインドウ	・正常に働かないとき	P. 154
パーキングサポートブレーキ★	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P. 246

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....438
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....442
アルファベット順さくいん.....444
五十音順さくいん.....446

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 99）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 101）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 336）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときはパワースイッチを OFF にしてください。（→ P. 171）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 127）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 109）

スライドドアが全開にならない

- 給油扉が開いていませんか？
  給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。
  （→ P. 111）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？ （→ P. 170）
- シフトポジションは P になっていますか？ （→ P. 180）
- キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 125）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムをかけることができます。（→ P. 408）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 410）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 153）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 172）

警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 442）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 366, 371 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 379）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 394）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 422）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 371
	窓が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 155
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 187
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 336
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 126
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 371

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 368
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 185
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない ※1	P. 368
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作をした ※2	P. 181
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 164
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 204
車線からはずれそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）の車線逸脱警報機能が作動した	P. 216
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 227

※1 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2 シフトポジションの切りかえが無効になるときや、自動的にNポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 262
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 249
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）. 249
ECO
（エコノミー／エコロジー）. 80, 234
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 249
EV
（エレクトリックビークル）. 176
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 430
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 427
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 43, 51
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）. 216
LED
（ライトエミッティングダイオード）. 350

PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 204
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 244
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 34
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）. . . 249
TRC
（トラクションコントロール）. 249
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 249

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）..... 410
アームレスト 306
アウターミラー（ドアミラー）... 151
アクセサリーコンセント 298
アクセサリーソケット..... 297
アクセサリーモード..... 171
アシストグリップ..... 310
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 249
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 125

い

イージークローザー
　スライドドア..... 110
　バックドア..... 121
EV ドライブモード..... 176
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）..... 170
位置交換（タイヤローテーション）..... 327
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 69
イルミネーテッドエントリーシステム 284
インジケーター
　ハイブリッドシステムインジケーター 80
　表示灯..... 75
　READY..... 170
インテリアランプ（室内灯）..... 282
　操作 283
　ワット数..... 429
インナーミラー..... 150

う

ウインカー（方向指示灯）..... 184
　電球（バルブ）の交換 344, 345, 350
　方向指示レバー..... 184
　ワット数 429
ウインドウ..... 153
　ウインドシールドデアイサー.....266
　ウォッシャー 190, 193
　パワーウインドウ..... 153
　リヤウインドウデフォッガー.....266
ウインドウロックスイッチ..... 153
ウインドシールドデアイサー.....266
ウォーニングランプ（警告灯）..... 73
ウォッシャー..... 190, 193
　液の補充 325
　スイッチ 190, 193
　タンク容量 429
　冬の前の準備・点検.....257
動けなくなったときは（スタック）.....422
運転 158
　雨の日の運転 159
　運転を補助する装置.....249
　寒冷時の運転 257
　正しい運転姿勢.....24
　手順 158
運転席シートベルト非着用警告灯 368

え

エアコン 262, 273
S-FLOW 263
曇り取り（フロントウインドウガラス）..... 266
「ナノイー」..... 270
フィルターの交換 333
フロントオートエアコン..... 262
リヤオートエアコン 273
リヤクーラー 277
エアバッグ 34
SRS エアバッグ警告灯..... 367
お子さまのための注意..... 35
改造・廃棄..... 38
作動条件..... 39
正しい姿勢..... 24
配置 34
エネルギーモニター..... 88
エレクトリックパワーステアリング（EPS）..... 249
機能 249
パワーステアリング警告灯..... 367
パワーステアリング警告ブザー 367
LDA（レーンディパーチャーアラート)..... 216
エレクトロニカリーコントロールドブレーキ（ECB）..... 249
エンジン
イモビライザーシステム 69
エンジン警告灯.....366
エンジンスイッチ.....170
オーバーヒート.....417
ハイブリッドシステムの始動方法 170
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）.....170
ボンネット 321
エンジンオイル 426
冬の前の準備・点検.....257
メンテナンスデータ.....426
油圧警告灯 366
油圧警告ブザー.....366
容量.....426
エンジンスイッチ（パワースイッチ).....170
エンジンフード（ボンネット）....321
開け方 321
エンジンルーム
エンジンルームから蒸気が出ている.....417

お

オイル（エンジンオイル）..... 426
応急用タイヤ 394
空気圧..... 429
交換方法..... 394
オートエアコン..... 262, 273
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 187
オーバーヒート..... 417
オープナー
給油口..... 198
ボンネット..... 321
オープントレイ..... 292
お子さまを乗せるとき 42
ウインドウロックスイッチ.... 153
エアバッグ..... 35
お子さまの安全のために..... 42
キーの電池..... 338
子供専用シート 43
シートヒーターに関する
警告..... 281
シートベルトの着用 30
チャイルドシートの
取り付け..... 51
チャイルドプロテクター..... 109
発炎筒の取り扱いに関する
警告..... 357
バッテリーに関する警告..... 415
パワーウインドウに関する
警告..... 155
オドメーター 77
機能 77
表示の切りかえ・
リセットボタン 78

か

カーテンシールドエアバッグ.....34
カーペット.....318
洗浄 319
フロアマットの取り付け方 22
外気温度表示.....81
回生ブレーキ.....60
外装の電球（バルブ）.....342
交換要領 342
ワット数 429
快適温熱シート
（シートヒーター）.....280
ガス欠になったとき 65
カスタマイズ機能 431
型式 430
カップホルダー 288
カメラ
前方カメラセンサー（Toyota
Safety Sense）.....199
ガラスの曇り取り
フロントウインドウガラス 266
リヤウインドウガラス 266
ガレージジャッキ 324
冠水路走行.....168
寒冷時の運転.....257

き

キー 98
キーナンバープレート 98
キーの構成 98
キーレスエントリー 98, 125
キーをなくした 99, 101
正常に働かない 408
解錠・施錠ができない 408
電子キー 98
電池が切れた 336, 408
ハイブリッドシステムが
始動できない 408
メカニカルキー 99
ワイヤレスリモコン 98
キーレスエントリー 98, 125
スマートエントリー&
スタートシステム 125
ワイヤレスドアロック 98
給油 195
給油のしかた 195
メンテナンスデータ 426
緊急時シートベルト固定機構 30
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム） 407
緊急時の対処
オーバーヒートした 417
キーの電池が切れた 336, 408
キーをなくした 99, 101
警告灯がついた 366
警告メッセージが
表示された 371
けん引 360
故障したときは 354
車両を緊急停止する 358
スタックした 422
電子キーが正常に働かない 408
ハイブリッドシステムが
始動できない 406
発炎筒 356
パンクした 379, 394
補機バッテリーがあがった 410
緊急停止システム 64
緊急ブレーキシグナル 249

く

空気圧（タイヤ）..... 429
メンテナンスデータ 429
クーラー
フロントオートエアコン..... 262
リヤオートエアコン 273
リヤクーラー 277
区間距離計
（トリップメーター）..... 77
機能 77
切りかえ・リセットボタン..... 78
駆動用電池 63
充電について 61
搭載位置..... 63
冷却用吸入口..... 64
曇り取り
フロントウインドウガラス.... 266
ミラーヒーター 266
リヤウインドウ
デフォッガー 266
クラクション（ホーン）..... 148
クリアランスソナー..... 236
警告メッセージ 241
警告ブザー..... 239
操作 237
クリアランスランプ（車幅灯）... 186
電球（バルブ）の交換..... 350
ランプスイッチ 186
クリップ（フロアマット）..... 22
クルーズコントロール..... 230
グローブボックス..... 287

け

警音器（ホーン）.....148
計器類（メーター）.....77
照度調整 78
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....81
メーター 77
警告灯.....73
ABS ＆ブレーキアシスト 367
SRS エアバッグ.....367
エンジン 366
高水温 366
シートベルト非着用.....368
充電.....366
スリップ表示灯.....367
電子制御ブレーキ.....366
ドライブスタート
コントロール.....368
燃料残量 368
パワーステアリング.....367
半ドア 368
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....367
PKSB OFF 表示灯.....367
プリテンショナー.....367
ブレーキ 366
ブレーキオーバーライド
システム 368
ヘッドランプオート
レベリング.....367
マスターウォーニング.....371
油圧.....366

警告ブザー
クリアランスソナー 239
高水温..... 366
シートベルト非着用 368
スマートエントリー&
スタートシステム..... 126
パーキングブレーキ
未解除走行時 185
パワーステアリング 367
半ドア..... 103
半ドア走行時..... 368
PKSB 367
ブレーキ..... 366
窓開 155
油圧 366
ランプ消し忘れ 187
リバース..... 181
警告メッセージ..... 371
化粧ミラー（バニティミラー）... 296
けん引..... 360
けん引のしかた 360
フック..... 362

こ

交換
エアコンフィルター 333
キーの電池..... 336
タイヤ..... 394
電球（バルブ）..... 342
ヒューズ..... 339
工具（ツール)..... 381, 395
航続可能距離 87
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....345
ワット数 429
高電圧部位.....63
子供専用シート.....43
選択方法 43
取り付け方 51
小物入れ.....291, 293
コンソールボックス 287
コンビニフック
（買い物フック）.....309
コンライト
（自動点灯・消灯装置）.....186

さ

サードシート.....134
サービスプラグ 66
サイドエアバッグ 34
サイド方向指示灯 184
電球（バルブ）の交換.....350
方向指示レバー.....184
サイドミラー（ドアミラー）.....151
操作 151
ミラーヒーター.....266
サンシェード.....311
サンバイザー.....296

し

シート.....131, 132, 134
アームレスト.....306
子供専用シート.....43
サードシート.....134
サイドテーブル.....307
シートアレンジ.....140
シートバックテーブル.....307
シートヒーター.....280
セカンドシート.....132
正しい運転姿勢.....24
調整.....131, 132, 134
手入れ.....318
フロントシート.....131
ヘッドレスト.....136
シートヒーター.....280
シートベルト.....26
お子さまの着用.....30
緊急時シートベルト固定機構...30
シートベルト非着用
警告灯.....368
高さ調整.....29
正しく着用するには.....26
着け方・はずし方.....26, 27
手入れ.....319
妊娠中の方の着用.....32
シートベルト非着用警告灯.....368
シートベルトプリテンショナー.....29
機能.....29
プリテンショナー警告灯.....367
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....67
室内灯（インテリアランプ）.....282
スイッチ.....283
ワット数.....429
始動のしかた.....170
シフトポジション.....179
シフトレバー.....179
操作.....179
リバース警告ブザー.....181
締め付けトルク（ホイール）.....403
ジャッキ
ガレージジャッキ.....324
車載ジャッキ.....381, 395
ジャッキハンドル.....381, 395
車幅灯.....186
電球（バルブ）の交換.....350
ランプスイッチ.....186
車両型式.....430
車両仕様（スペック）.....426
車両データの記録.....7
車両を緊急停止するには.....358
充電用 USB 端子.....304
ジュニアシート.....44
瞬間燃費.....86
仕様（車両仕様）.....426
初期設定.....435
助手席シートベルト非着用
警告灯.....368

す

スイッチ
アクセサリーコンセント
メイン.....298
EV ドライブモード.....176
イグニッション.....170
ウインドウロック.....153
ウインドシールド
デアイサー.....266

ウォッシャー..... 190, 193
エコドライブモード 234
LDA（レーンディパーチャー
アラート）..... 218
エンジンスイッチ 170
オートマチックハイビーム.... 223
クルーズコントロール..... 230
シートヒーター 280
時刻調整..... 296
TRC OFF 250
ドアミラー..... 151
ドアロック..... 104
パワーウインドウ 153
パワースイッチ 170
パワースライドドア 109
パワースライドドアメイン.... 107
パワーモード..... 234
PCS （プリクラッシュ
セーフティ）..... 208
非常点滅灯
（ハザードランプ)..... 355
フォグランプ..... 189
方向指示レバー 184
ホーン（警音器）..... 148
メーター操作..... 83
ランプ..... 186
リヤウインドウ
デフォッガー 266
ワイパー..... 190, 193
スタック 422
**ステアリングホイール
（ハンドル）..... 148**
位置調整 148
メーター操作スイッチ 83
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換..... 350
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 257
スピードメーター 77
スペアタイヤ（応急用タイヤ）.... 394
空気圧 429
交換方法 394
スペック（車両仕様）..... 426
**スマートエントリー＆
スタートシステム..... 125**
アンテナの位置..... 125
カスタマイズ設定..... 431
緊急始動機能 407
警告ブザー 126
警告メッセージ..... 374
作動範囲 125
正常に働かないとき 408
節電機能 126
電波がおよぼす
影響について..... 130
ドアの解錠・施錠..... 102, 120
ハイブリッドシステムの
始動 170
スモールランプ（車幅灯）..... 186
電球（バルブ）の交換..... 350
ランプスイッチ..... 186

スライドドア 106
イージークローザー 110
チャイルドプロテクター..... 109
ドアガラス..... 153
半ドア警告灯 368
半ドア走行時警告ブザー..... 368
パワースライドドア 107
ロックレバー..... 106
ワイヤレスリモコン 107

せ

清掃..... 314, 318
アルミホイール 315
外装 314
シートベルト..... 319
内装 318
制動灯
電球（バルブ）の交換..... 350
積算距離計（オドメーター）..... 77
機能 77
表示切りかえボタン 78
セカンドシート..... 132
セキュリティインジケーター 69
先行車発進告知機能..... 227
センサー
湿度センサー..... 269
前方センサー..... 199
ライトセンサー 187
洗車..... 314
前照灯（ヘッドランプ)..... 186
電球（バルブ）の交換..... 350
ライトセンサー..... 187
ランプ消し忘れ警告ブザー 187
ランプ消し忘れ防止機能 187
ランプスイッチ..... 186

そ

走行モード
（ドライブモード)..... 234
速度計（スピードメーター)..... 77

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 184
電球（バルブ）の
交換 344, 345, 350
方向指示レバー..... 184
ワット数 429
タイヤ..... 327
応急用タイヤ 394
空気圧 429
交換 394
締め付けトルク..... 403
チェーン 257
点検 327
パンク応急修理キット 379
パンクしたときは..... 379, 394
冬用タイヤ 257
ホイールサイズ..... 429
ローテーション
（位置交換）..... 327
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 422
タイヤチェーン 257

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 257
チャイルドシート..... 43
ISOFIX バーでの取り付け..... 53
シートベルトでの固定..... 52
選択方法..... 43
チャイルドプロテクター..... 109
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 185
操作 185
ブレーキ警告灯 366
未解除走行時警告ブザー..... 185
メンテナンスデータ 428

つ

ツール（工具）..... 381, 395

て

手入れ..... 314, 318
アルミホイール 315
外装 314
シートベルト 319
内装 318
テーブル 307
テールランプ（尾灯）..... 186
電球（バルブ）の交換..... 350
ランプスイッチ 186
デッキフック 295
デッキボード 293
デフォッガー（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 266
電気モーター 63
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 342
ワット数..... 429
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....426
電子キー.....98
作動範囲 125
正常に働かないとき.....408
節電機能 127
電池が切れた 336, 408
電池交換（キー）.....336

と

ドア 102, 106, 120
スマートエントリー&
スタートシステム.....125
チャイルドプロテクター.....109
ドアガラス 153
ドアロックスイッチ.....104
半ドア警告灯 368
半ドア走行時警告ブザー.....368
ロックレバー 104
ワイヤレスリモコン.....98
ドアポケット.....290
ドアミラー.....151
操作.....151
ミラーヒーター.....266
盗難防止装置
イモビライザーシステム 69
時計 296
トップテザーアンカー.....51
Toyota Safety Sense.....199
LDA（レーンディパーチャー
アラート）.....216
オートマチックハイビーム 223
先行車発進告知機能.....227
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）.....204

ドライブインフォメーション 86
ドライブスタート
コントロール..... 160
トラクションコントロール
（TRC）..... 249
トランスミッション..... 179
操作 179
メンテナンスデータ 428
トリップメーター..... 77
機能 77
表示切りかえボタン 78

な

内装
収納装備..... 285
手入れ..... 318
「ナノイー」..... 270

に

ニーエアバッグ..... 34
荷物
積むときの注意 169
荷物固定用フック
（デッキフック）..... 295

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）..... 422

ね

燃費
1 分間燃費 86
エネルギーモニター 88
5 分間燃費 86
瞬間燃費 86
平均燃費 87
燃料 426
給油 195
種類 426
燃料残量警告灯.....368
容量 426
燃料計.....77

は

パーキングサポートブレーキ
（PKSB）.....244
警告灯 367
警告ブザー 367
警告メッセージ.....246
操作 245
表示灯 75
パーキングブレーキ 185
操作 185
ブレーキ警告灯.....366
未解除走行時警告ブザー 185
メンテナンスデータ 428
パーソナルランプ 282
操作 283
ワット数 429
排気ガス.....58
ハイビーム（ヘッドランプ）.....186
オートマチックハイビーム 223
スイッチ 186
電球（バルブ）の交換.....350

ハイブリッドシステム..... 59
EV ドライブモード..... 176
運転のアドバイス 255
オーバーヒート 417
回生ブレーキ..... 60
ガス欠になったとき 65
緊急始動機能..... 407
緊急時の停止方法 358
緊急停止システム 64
駆動用電池冷却用吸入口..... 64
警告メッセージ 64
高電圧部位..... 63
サービスプラグ 66
事故が発生したとき 67
始動できないときは 406
始動方法..... 170
車両接近通報装置 60
充電 61
注意 63
特徴 59
特有の音と振動 62
パワー（イグニッション）
スイッチ 170
補機バッテリーがあがった.... 410
メンテナンス・
修理・廃車するとき..... 62
ハイブリッドシステム
インジケーター..... 80
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 350
ハザードランプ（非常点滅灯）....355
スイッチ 355
電球（バルブ）の
交換 344, 345, 350
ワット数 429
挟み込み防止機能
スライドドア 111
パワーウインドウ.....153
発炎筒.....356
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換.....345
ワット数 429
バックドア.....120
イージークローザー.....121
スマートエントリー&
スタートシステム.....120
バッテリー（駆動用電池）.....63
充電について 61
搭載位置 63
冷却用吸入口 64
バッテリー（補機バッテリー）
交換するとき 414
搭載位置 322
補機バッテリーがあがった 410
バニティ（化粧用）ミラー.....296
バニティランプ.....296
装備について 296
ワット数 429
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ）.....342
ワット数 429

パワーウインドウ..... 153
ウインドウロックスイッチ.... 153
閉めることができない
ときは..... 154
操作 153
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能..... 154
挟み込み防止機能 153
巻き込み防止機能 154
パワーコントロールユニット 63
パワー（イグニッション）
スイッチ 170
パワーステアリング..... 249
機能 249
警告灯..... 367
パワースライドドア..... 107
操作 107
挟み込み防止機能 111
パンクした
応急用タイヤ装着車 394
タイヤパンク応急修理キット
装着車..... 379
番号灯
（ライセンスプレートランプ)... 186
電球（バルブ）の交換..... 348
ランプスイッチ 186
ワット数..... 429
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 148
位置調整..... 148
オーディオ操作スイッチ..... 311
メーター操作スイッチ..... 83

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC)..... 249
ヒーター
シートヒーター..... 280
フロントオートエアコン 262
ミラーヒーター..... 266
リヤオートエアコン 273
非常点滅灯
（ハザードランプ)..... 355
スイッチ 355
電球（バルブ）の
交換 344, 345, 350
ワット数 429
尾灯（テールランプ）..... 186
電球（バルブ）の交換..... 350
ランプスイッチ..... 186
ヒューズ..... 339
表示灯..... 75
日よけ
サンシェード（後席用）..... 311
サンバイザー 296
ヒルスタートアシスト
コントロール 249

ふ

ブースターケーブルの
つなぎ方..... 410
フォグランプ..... 189
スイッチ 189
電球（バルブ）の交換..... 350

ブザー
クリアランスソナー 239
高水温警告 366
シートベルト非着用警告 368
パーキングブレーキ
未解除走行時警告 185
パワーステアリング警告 367
半ドア警告 103
半ドア走行時警告 368
PKSB 367
ブレーキ警告 366
窓開警告 155
油圧警告 366
ランプ消し忘れ警告 187
リバース警告 181
フック
買い物フック 309
けん引フック 362
デッキフック 295
フロアマット固定フック 22
フューエルメーター（燃料計）..... 77
フューエルリッド（給油口）..... 195
冬の前の準備（寒冷時の運転）... 257
冬用タイヤ 257
プリクラッシュセーフティ
（PCS）..... 204
機能 204
PCS スイッチ 208
PCS 警告灯 367
ブレーキ
回生ブレーキ 60
緊急ブレーキシグナル 249
警告ブザー 366
パーキングブレーキ 185
ブレーキ警告灯 366
メンテナンスデータ 428
ブレーキアシスト 249
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 367
機能 249
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 164
ブレーキフルード 428
フロアマット 22
フロントシート 131
シートヒーター 280
正しい運転姿勢 24
調整 131
手入れ 318
ヘッドレスト 136
フロント方向指示灯 184
電球（バルブ）の交換 344
方向指示レバー 184
ワット数 429

へ

平均燃費 87
ヘッドランプ 186
電球（バルブ）の交換 350
ライトセンサー 187
ランプ消し忘れ警告ブザー 187
ランプ消し忘れ防止機能 187
ランプスイッチ 186
ヘッドランプオートレベリング
システム 187
警告灯 367
ヘッドレスト 136
ベビーシート 44

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 394
手入れ（アルミホイール）..... 315
メンテナンスデータ 429
方向指示灯 184
電球（バルブ）の
交換..... 344, 345, 350
方向指示レバー 184
ワット数..... 429
ホーン（警音器）..... 148
補機バッテリー
交換するとき 414
搭載位置..... 322
補機バッテリーがあがった.... 410
保証..... 9
ボトルホルダー..... 289
ボンネット 321

ま

マスターウォーニング..... 371
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 81
エネルギーモニター 88
警告メッセージ 371
設定 92
ドライブインフォメーション... 86

み

ミラー
インナーミラー..... 150
ドアミラー 151
バニティミラー..... 296
ミラーヒーター..... 266

め

メーター（計器類）..... 77
警告灯 73
照度調整 78
表示灯 75
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 81
メーター 77
メカニカルキー 99
メンテナンスデータ 426

も

モーター（電気モーター）..... 59
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 176

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能..... 431
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 422
油脂類..... 426

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 186
電球（バルブ）の交換..... 348
ランプスイッチ 186
ワット数..... 429
ラゲージルーム内装備..... 293
小物入れ..... 293
デッキフック 295
デッキボード..... 293
ラジエーター
オーバーヒート 417
メンテナンスデータ 428
ランプ
インテリアランプ 283
室内灯..... 282
電球（バルブ）の交換..... 342
パーソナルランプ 283
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 355
フォグランプ..... 189
ヘッドランプ（前照灯）..... 186
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 184
ライトセンサー 187
ランプ消し忘れ警告ブザー.... 187
ランプ消し忘れ防止機能..... 187
ワット数..... 429
ランプ消し忘れ警告ブザー 187
ランプ消し忘れ防止機能 187

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ.....266
リヤオートエアコン 273
リヤクーラー 277
リヤシート.....132, 134
リヤ方向指示灯 184
電球（バルブ）の交換.....345
方向指示レバー.....184
ワット数 429
リヤワイパー 193

る

ルームミラー
（インナーミラー）.....150
ルームランプ（室内灯）.....282

れ

冷却水.....428
高水温警告灯 366
冬の前の準備 257
メンテナンスデータ.....428
冷却装置（ラジエーター）.....428
オーバーヒート.....417
メンテナンスデータ.....428
レバー
シフト.....179
スペースアップ
（サードシート）.....134
ハンドル位置調整レバー 148
方向指示 184
ボンネット解除.....321
ロック（ドア）.....104, 106
ワイパー 190, 193

ろ

ロック
ウインドウロック 153
スマートエントリー&
スタートシステム..... 125
チャイルドプロテクター..... 109
ドア 102, 120
ワイヤレスリモコン 98

わ

ワイパー&
ウォッシャー..... 190, 193
ウォッシャー液の補充..... 325
ワイパーブレード（寒冷地用）... 258
ワイヤレスリモコン..... 98
作動の合図..... 103
操作 98
電池の交換..... 336
ワックス 314
ワット数 429

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	50L
燃料の種類 （→ P. 426）	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	タイヤサイズ：195/65R15 91S、205/55R16 91W 前輪・後輪：240kPa（2.4kg/cm^2） 応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時： 3.9L オイルとオイルフィルター交換時： 4.2L
エンジンオイルの種類 （→ P. 426）	トヨタ純正モーターオイル ・ SN PLUS 0W-20（API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

タ-75

TOYOTA

M 28829
01999ー28829
II-2019年３月８日
2019年１月７日 初版
2019年３月15日 ２版
ノア(ハイブリッド車)